



Until we are all equal

# 気候変動下を生きる 太平洋地域の 女の子

**報告書の共同執筆者:** Kiribati Climate Action Network、Naomi Joy Godden、Kavita Naidu、Trimita Chakma、Zoe Leviston、Maria Nailevu、Pelenise Alofa、Jennifer Merryweather、Robert Karoro、Joy Hu、Pauline Scott、Kylie Wrigley。

**ユース女性と気候正義の共同調査員:**

Maria、Taarawa、Tebwebwe、Rutika、Turinga、Tebwebwe、Salome、Mereoni、Divya Swamy、Laniana、Qaayenaat、Reapi、Loleina、Matilita、Mariti、Maximillian、Tokareeti、Kamoia、Teboranga、Ariti、Bosco、Ramanibina、Lina、Ekeuea、Wakana、Ruby、Toanfemam、Teretia、Rotiluta、Kilkitieta。

**推奨される参照:** Kiribati Climate Action

Network、Godden,N.J.、Naidu,K.、Chakma,T.、Leviston,Z.、Nailevu,M.、Alofa,P.、Merryweather,J.、Karoro,R.、Hu,J.、Scott,P.、Wrigley,K. (2024年)*Pacific Girls in a Changing Climate*. Plan International Australia and Edith Cowan University Centre for People, Place and Planet。

本プロジェクトは、プラン・インターナショナル・オーストラリア(PIA)、Kiribati Climate Action Network(KiriCAN)、Edith Cowan大学のCentre for People, Place and Planet、Australian National大学との共同作業である。

PIAは、世界的な独立した開発・人道支援団体だ。当分野で最も長く、経験豊富で、大規模な団体の1つであるプランは、女の子や最も疎外された子どもが直面する不公正の根本原因に取り組むため、子ども・ユース・支援者・パートナーと協力している。

KiriCANは、キリバス諸島での気候変動の深刻な影響への対処を目的とする連合だ。2011年、Pelenise Alofaにより設立されたKiriCANは、複数の組織をまとめ、気候変動へのレジリエンスの提唱・コミュニティの適応プロジェクトの支援・同国の窮状に関する国際的な認識の向上に取り組んでいる。KiriCANは、様々な面から困難の軽減に取り組んでおり、気候変動へのレジリエンスがある実践を開発するためのコミュニティ研修プログラム導入や、国際的なパートナーとの協力による地域能力の強化、国内外の気候政策への働きかけを行っている。

Edith Cowan大学のCentre for People, Place and Planetは、地球環境の変化という観点から、参加型手法を用いた学際的調査を実施している。同センターは、人間・生態系・土地固有の知識を再結合し、普遍的なウェルビーイングの実現を目指している。

Australian National大学は、オーストラリアの首都キャンベラにある公立の調査を専門とする大学である。7つの学科から構成され、その中には医学部と心理学部がある保健・医学学科も含まれる。

## 謝辞

私たちは、太平洋地域の土地・海・空、太平洋の人びとの守り続ける姿勢に感謝し、敬意を表します。本プロジェクトに参加した太平洋地域の女の子と、彼女たちの知識と気候正義への献身にも感謝している。気候正義は、あらゆる実体験の中での全ての女の子の人権、そして彼女たちの家族、コミュニティ、土地、海、空に対する権利を保証するものだ。

プラン・オーストラリアは、過去と現在を生きる先住民の長老に謝意と敬意を表明する。後からの入植者に主権が譲渡されることは決してなく、オーストラリアの土地は永久に先住民の土地であると認識する。彼らの土地、水、コミュニティとの永続的なつながりを認識し、継続的な学習、深い傾聴、連帯に基づく行動を約束する。

私たちは、気候正義は先住民の正義に委ねられていることを認識している。オーストラリアの先住民は気候危機の最も深刻な影響を受けており、6万年以上にわたり彼らが継承してきた「国」を保護する知恵を、私たちの気候対応の中心に据えるべきである。

私たちは、先住民の正義を獲得する継続中の闘いにおいて、同盟と連帯を誓う。また、オーストラリアにおける先住民に対する歴史的な差別と参政権剥奪も、国民投票の不本意な結果に現れている。

同盟組織である私たちは、先住民の正義や気候危機への対応に関して、先住民コミュニティこそが解決策を持っていることを認識している。オーストラリアが耳を傾け、彼らの知識を私たちの気候対策の中心に据えることが重要である。この変革の運動において、先住民の主権と、私たちの土地と水の保護管理権を認める条約は極めて重要である。



# まえがき

Apolonia<sup>1</sup>はフィジーの地方に住む18歳の先住民の女の子である。これは彼女が書いた気候変動に関する詩だ。

気候変動は笑えない

みんなが気にするのはお金だけ

石油採掘から

伐採

もっと土壌が必要です

世界を清潔にしましょう

オゾン層破壊は見られなくなったけれど

もっとたくさんの試みが必要です

ユースとして動こう

そうすれば簡単だ

そして突破する

「気候変動」を

愛が必要

ケアが必要

私はあなたの居場所

でも、あなたは破壊する

私の皮と骨を

でも、赦し、

忘れ、

あなたを生かしておきます

でも、それを後悔しています



# 目次

08	要約
14	背景と文脈
19	調査方法
25	調査結果: 気候変動が太平洋地域の女の子に与える影響
45	調査結果: 太平洋地域の女の子の気候正義に対する行動提案
55	調査結果: 太平洋地域の女の子の気候正義のための活動
64	気候変動下の太平洋地域の女の子による提言
73	結論
74	脚注

## 図表一覧

15	図1. 危機下の思春期の女の子 (AGiC) 1.0における要素
17	図2. AGiC 社会生態学的枠組み
19	図3. アジア太平洋女性・法律・開発会議 (APWLD) のフェミニスト参加型行動調査 (FPAR) の9原則
22	図4. 本調査の対象太平洋諸国の地図
22	表1. 調査参加者の実体験
25	図5. 女の子が経験した気候変動の影響
26	図6. 気候変動の生活・学校・コミュニティへの影響
28	図7. 気候変動の女の子の基本的なニーズへの影響
33	図8. 気候変動の女の子の健康とウェルビーイングへの影響
38	図9. 気候変動の女の子の教育と生計への影響
42	図10. 気候変動の女の子のコミュニティと文化への影響
45	表2. 気候変動対策として女の子が優先する行動
49	表3. 気候変動への適応を促すために女の子が優先する行動
52	表4. 災害リスクへのレジリエンス強化のために女の子が優先する行動

ナンディ近郊の村、フィジー  
写真: Unsplash



# 気候変動が太平洋地域の女の子の生活を脅かす

ミクロネシア連邦(FSM)・フィジー・キリバス・ソロモン諸島・トンガ・ツバルを含む太平洋地域全域の319人の女の子を対象に調査を実施した。彼女たちは以下のことを語った。

## 82%

の女の子が、気候変動が家庭・学校・コミュニティでの生活に影響を与えていると回答。

### 教育の阻害



## 50%

の女の子が、気象災害により学校に通えなくなったと回答。

### 健康とウェルビーイング



わずか

## 0.6%

の女の子が、自身の健康とウェルビーイングに気候変動は影響しないと回答。

### 食料不足



## 27%

の女の子が、気候変動で食料が不足していると回答し、19%が空腹を覚えると回答。

### 水不足



約

## 50%

の女の子が、彼女たちの基本的ニーズに対する気候変動の主な影響は、清潔な真水の不足であると回答。

### 住居の不安定性



ほぼ

## 3分の1

の女の子が、気候変動で家屋が損傷・破壊されたと回答。

# 女の子は受動的なアクターではなく、 主導者でありアクティビストである

太平洋地域の女の子は  
気候正義アクティビストだ



**34%**

の女の子が気候正義  
の活動に参加して  
いる。

太平洋地域の女の子は、強力な  
女の子主導の運動の展開を望む



**72%**

の女の子が、気候正義  
のグループと関わるこ  
とを望んでいる。

太平洋地域の女の子は、  
公正な未来の創造を望む



**57%**

の女の子が、気候変動  
政策と行動の実現に影  
響を与えたいと望んで  
いる。

太平洋地域の女の子は、明るい  
未来を築くためのツールを望む



**66%**

の女の子が、気候変動  
への適応方法を学ぶ  
教育を望んでいる。

# 要約

気候変動は、太平洋の島国コミュニティにとって大きな脅威である。太平洋地域で暮らす思春期の女の子は、この地域の女性や男性、他の子どもとは異なる、特有の気候変動の経験をしている。それは、彼女たちの年齢、ジェンダー、コミュニティや家族内での地位に起因し、家父長制・植民地主義・資本主義等の圧制構造により強化されている。

本プロジェクト「気候変動下を生きる太平洋地域の女の子」は、PIAがKiriCAN、Edith Cowan大学のStrategic Research Centre for People, Place and Planet、Australian National大学と提携して開始し、2021～2024年に実施したものだ。これは、太平洋の10～18歳の女の子が経験するあらゆる面での気候変動の影響に関する認識をコミュニティで高め、太平洋地域における気候正義のための女の子主導の活動強化を目的としている。

## 調査方法

本プロジェクトは、FPARの原則と実践に依拠している。FPARは、調査・ジェンダー正義・気候問題の提唱活動を結合したものである。これは、コミュニティが促進・共に主導する循環的・発展的・共同設計のプロセスである。FPARでは、コミュニティが共同で調査・活動を展開して、自身の生活に関する知識の蓄積と制度的不正義への解決に取り組むようにする中で、計画・行動・観察・振り返りの継続的なサイクルが展開される。本プロジェクトでは、4つのサイクルが展開される。

**サイクル1 - 共同設計:** キリバスとフィジーの12人のユース女性が、ワークショップで、FPARと気候正義に関する研修参加と、プロジェクトのデータ収集方法を共同設計した。

**サイクル2 - データ収集:** データは2つの方法で収集した。



1) 太平洋諸国6カ国(FSM・フィジー・キリバス・ソロモン諸島・トンガ・ツバル)の10~18歳の女の子319人を対象に、**地域調査**を実施した。調査では、気候変動が彼女たちの生活にどう影響しているか、太平洋地域の女の子への気候変動の影響に対処するために政府や他の国々がとるべき行動、女の子が気候正義の活動にどう関わられるか等を尋ねた。

2) **芸術による語り**には、フィジーとキリバスの10~18歳の女の子34人が参加した。彼女たちは、気候変動が自身の生活に与えた影響、政府に求める行動、気候正義のための女の子主導の活動について、**絵画・動画・プレゼンテーション**を作成した。

**サイクル3 - 参加型データ分析と執筆:** ユース女性を含むKiriCANの14人の気候変動アドボケイトが、キリバスで参加型ワークショップに参加し、データを共同分析・提言の策定・調査報告書執筆に貢献した。

**サイクル4 - 女の子主導の提唱活動:** KiriCANの14人の気候変動アドボケイトは、気候変動に対する提唱活動とキャンペーン計画に関する研修に参加した。本報告書の公開後、太平洋のユース女性は、PIAとKiriCANの支援を受け、女の子主導の気候正義のための提唱活動に参加予定である。

本プロジェクトでは、パートナーや調査チームの保護評価・保護研修・保護報告/照会マッピングとプロトコルの策定・女の子と保護者のインフォームドコンセントの手続き等、倫理と子どもの保護戦略が採用された。

## **調査結果:** 気候変動が太平洋地域の女の子に与える影響

データから、太平洋地域の女の子は気候変動の様々な影響を経験していることが判明した。最も代表的な影響は気温の上昇や水不足、海面上昇、異常気象である。ツバルのような環礁の国々は、沿岸浸食や洪水等の問題に直面しており、最も深刻な影響を女の子が受けている。海面上昇は、ツバル・キリバス・FSMの女の子に影響が大きい。地方や離島では、より深刻な影響を受けている。82%の女の子が、気候変動が家庭や学校、コミュニティでの生活に影響を与えていると回答した。

トコリキ諸島、フィジー  
写真: Unsplash



学校に設置された、手洗い用の清潔な真水の貯水タンク、西ガダルカナル州、ソロモン諸島  
写真: PIA

#### 気候変動の女の子の基本的なニーズへの影響:

女の子は、特に地方や離島では、清潔な真水の入手が気候変動による最大の問題であると回答した。気候変動は水不足を悪化させ、家事をこなし、清潔を保つ女の子の能力を損なわせる。気候変動はまた、作物の栽培や漁業を困難にさせ、女の子の良質な食料の摂取を妨げる。4分の1の女の子が、洪水やサイクロン等の気象現象で家屋が損壊し、家族で避難したと述べた。気象災害は、送電・電話・インターネット回線も寸断し、女の子の教育を妨げる。特に障害を持つ女の子には、災害対応へのアクセスと包摂が重大な問題であり、それには災害情報の入手が困難かつ障害者対応の避難施設の不足が含まれる。

#### 気候変動が与える女の子の健康とウェルビーイングへの影響:

女の子は、気候変動が彼女たちの身体的・精神的健康に重大な影響を及ぼしているとは回答した。気候変動による問題には、猛烈な暑さ/のどの渇き/疲労感・低水準の清潔さ・調理や入浴用の清潔な真水の入手困難による皮膚や胃腸の不調・不衛生・過密・栄養不足・汚れた空気・汚染等がある。女の子は、気候変動に関連する心配・恐怖・ストレス等の精神的な健康問題も訴えている。気候変動は家族のウェルビーイングにも影響を及ぼし、家の喪失や村の移動により一家離散を経験した女の子もいた。また、災害時・災害後に身体的暴力、早すぎる強制された結婚(CEFMU)、性とジェンダーに基づく暴力(SGBV)を経験した女の子もおり、避難所での支援サービスの利用が困難であり、安全面の問題があると指摘した。

#### 気候変動の女の子の教育・遊び、生計への影響:

50%の女の子が、気象災害により、休講や学期の変更があり、教育を受けられなかったと話した。特にツバル・トンガ・ソロモン諸島で多く見られた。洪水や暴風雨は学校や道路、インターネット回線に被害を与え、女の子の学業を妨げている。気象災害は、都市部/地方/離島に住む女の子の間の教育インフラや教育機会の格差を拡大する。運動場の劣化・猛暑による苦痛・飲料水の不足・体調不良・家事労働の増加により、女の子のスポーツや余暇、遊びの機会が減少している。特に農業や漁業に従事する家庭の生計が気候変動により打撃を受けると、経済的圧迫や女の子の家事の責任が増大し、女の子を学校に通わせることができなくなる場合もある。

#### 気候変動のコミュニティと文化への影響:

気候変動はコミュニティのインフラを損なわせる。それは、地方や遠隔地の中で、今でさえ医療・教育・その他公共インフラが不足している場所では、一層深刻である。女の子は、気候変動が教会やコミュニティの建物を損傷し、伝統的集会やコミュニティの行事に影響を及ぼしていると述べた。また、気候変動は、墓地や儀式の場、先祖代々の土地を荒廃させ、踊り・音楽・歌等のコミュニティ・文化活動の機会を奪うなど、女の子の文化的な慣習や生活様式に影響を及ぼしている。

海面上昇・洪水・地滑り等の自然災害は、環境の様相を一変させ、薬草などの先住民の知恵を喪失させる。家族やコミュニティの移動は、文化的慣習や世代間の知識共有を妨げ得る。

## 調査結果: 太平洋地域の女の子の気候正義に対する行動提案

女の子は、気候変動の阻止・女の子の気候変動への対応支援・災害へのレジリエンス構築等、気候正義のために政府や他の国々がとるべき行動を挙げた。彼女たちの重要な主張は、政府は気候変動政策において、女の子とその多様な実体験を中心に据えること、というものだ。

**気候変動の阻止:** 女の子は、政府が森林伐採を禁止する厳格な規則を施行し、樹木やマングローブを積極的に植林し、水の使用量を削減することで自然環境を保護することを望んでいる。また、太平洋と世界の政府や企業に対し、化石燃料の燃焼を止め、炭素汚染を削減し、再生可能エネルギーの拡大と廃棄物管理の改善を求めている。更に、啓発グループやプログラム・学校カリキュラムへの気候変動教育導入の強化・ワークショップ等の施策を通じて、女の子の気候変動教育の機会創出を求めている。

**女の子の気候変動への対処と、気候変動に対するレジリエンス構築の支援:** 女の子は、政府が彼女たちに園芸や水泳等の適応スキルを学ぶ機会を提供することを望んでいる。また、政府が気候政策に女の子の声を反映させ、清潔な真水・適切な避難所・適切な廃棄物管理等の基本的なニーズを女の子に提供することも求めている。加えて、他の国々に対し、太平洋での持続可能な生計を支援するよう要求している。

**緊急対応と災害リスクへのレジリエンス:** 女の子は、政府が災害時に女の子に高い関心を向けることを望んでいる。彼女たちが優先的に望むのは、防災教育・災害時の女の子の安全確保・災害情報の共有強化・女の子のためのケアセットの提供である。彼女たちは、災害教育の改善、早期警報システムの整備、安全で利用しやすい避難施設の提供が必要だとした。また、世界各国に対し、災害時に太平洋コミュニティに食料・水・医療支援、生理用品等の衛生用品を提供するよう求めている。

## 調査結果: 太平洋地域の女の子の気候正義のための活動

**太平洋地域の女の子の気候正義活動への参加:** 34%の女の子が気候正義活動に参加しており、特にツバル・キリバス・離島や地方で活動が活発である。彼女たちは主に学校グループ・コミュニティ教育・環境プロジェクトを通じて活動している。太平洋地域の女の子は気候正義活動への参加に強い関心があり、72%の女の子が気候正義グループと関わりたいと望んでいる。

**政府に気候変動対策を促すための女の子の活動に関する提案:** 女の子は、気候正義のために政府が有意義な行動を取るよう促すために、集団的行動を起こしたいと考えている。女の子主導の活動として提案されているものには、組織の結成、平和的な抗議活動、意思決定者への働きかけ、メディアを活用した啓発活動等がある。また、女の子への気候変動教育や、女の子の環境プロジェクトへの参加の推進等も提案された。同時に、コミュニティの災害対策への参加も望んでいる。

**太平洋地域の女の子の気候正義の活動参加への条件:** 女の子は、気候正義の活動に参加するため、気候変動教育を受ける機会を求めている。また、女の子の気候正義グループや学校活動等の集団行動の機会も求めている。更に、家族・コミュニティ(コミュニティリーダーを含む)・政府からの支援と、世界の国々が彼女たちの声を聞くことも望んでいる。個人の意欲もまた重要である。

**太平洋地域の女の子の気候正義の活動への参加に対する障壁:** 太平洋地域の女の子が気候正義の活動に参加する機会を阻む障壁には、気候変動に関する知識不足や、活動の機会・支援・リソースの不足等がある。文化的規範・ジェンダー・年齢で、女の子の参加が阻まれる場合もある。また、長老やコミュニティから反対される場合もある。気候正義のアクティビストになることを躊躇・恐れ・恥じる女の子もいる。経済的制約・移動の制限・家庭内での役割も、彼女たちの参加を妨げる。障害を持つ女の子は、参加や包摂の面で更なる困難に直面する。

# 気候変動下を生きる 太平洋地域の女の子による提言

共同調査員は、気候変動下を生きる太平洋地域の女の子の人権と積極的な参加を守るための10の戦略を推進している。これらの戦略は、太平洋と世界の政府および産業界、並びに太平洋地域で気候正義のプログラムや提唱活動を行う市民社会組織(CSO)に向けられている。

## 戦略1:

太平洋地域の女の子は、気候正義のための女の子主導のフェミニスト運動をより展開できるよう支援を受け、リソースが提供されること。これには、あらゆる生活面での女の子に対する適切な訓練・指導・資金提供、および太平洋・世界的規模での女の子主導の運動と広範なフェミニスト運動との強固な関係構築を含む。

## 戦略2:

太平洋のNGO・政府・フェミニスト・CSO・提唱団体が、女の子が集団で気候正義に関する共同学習や提唱活動を行い、コミュニティの声を代弁できる包摂的な場を設けること。

## 戦略3:

太平洋地域の女の子が、気候変動の実体験を記録し、女の子の権利を守る効果的な災害対策を推進し、気候正義の活動への関与について共有できるよう、支援・指導・リソースが提供されること。

## 戦略4:

太平洋の政府は、森林・海洋・河川・真水資源・大気・土地を保護するための法律を改正・強化・施行すること、という女の子の訴えに耳を傾けること。これには、海洋生物や生物多様性を食料や生活の源として認識・保護することが含まれ、健全な環境を享受する権利は自然環境の持続可能性に左右されることを認識すること。

## 戦略5:

気候変動下で太平洋地域の女の子の権利を守るため、政策立案者は部門横断的に連携すること。

## 戦略6:

政策立案者は、女の子と積極的に対話し、気候変動に関する意思決定に役立てること。

## 戦略7:

太平洋の女の子全員が、良質な水・食料・住居・エネルギー・インターネット・コミュニティ施設へのアクセス権という人権を行使できるよう、適正に管理され、安全で気候変動に強い必須インフラを利用可能であること。

## 戦略8:

太平洋の女の子全員が、気象災害時・災害後も質の高い教育を受けられ、気候変動に強い生計手段を追求し、気候正義の活動に携われること。これには、初等・中等・中等後教育のカリキュラムにフェミニスト気候正義が必ず導入されるようにすることが含まれる。

## 戦略9:

太平洋地域の女の子が災害時・災害後に健康と安全を享受する権利が守られること。

## 戦略10:

太平洋地域の女の子が、気候変動への適応と災害へのレジリエンス構築に関し、変化の担い手かつ初動対応者として支援・指導・リソースが提供されること。

# 1. はじめに

気候変動は、太平洋の島国地域にとって重大な脅威となっている。国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)の最新の統合報告書によると、太平洋地域は気候変動の影響を最も深刻に受ける可能性が高く、今世紀中にいくつかの小島が居住不可能になるという<sup>2</sup>。環礁諸国は、損失・損害のリスクが最も高い。IPCCは、太平洋諸島が気候変動や異常気象の影響として不平等に移動を強いられていることを認めた。その他の重大なリスクとして、サンゴ礁や湿地の減少、海面上昇による沿岸地域の土地の喪失、貧困の拡大などが挙げられている。

太平洋の思春期の女の子は、気候変動に関して、同地域の女性・男性・他の子どもとは異なる特有の経験をしている。これは、彼女たちの年齢・ジェンダー・コミュニティや家族内での地位に起因し、家父長制・植民地主義・資本主義等の圧制構造により強化されている。

本プロジェクトは、PIAがKiriCAN、Edith Cowan大学のStrategic Research Centre for People, Place and Planet、Australian National Universityと提携して開始し、2021～2024年に実施されたものだ。本プロジェクトは、FPARの原則と実践に依拠している。

本プロジェクトの目的は以下の通り。

- 思春期の女の子とユース女性の気候変動と気候正義に関する知識の深化
- 気候変動が思春期の女の子に生活のあらゆる面で与える影響に関するコミュニティの知識の深化
- 気候正義のアドボケイトとしての思春期の女の子とユース女性のスキルと自信の向上
- 太平洋の思春期の女の子とユース女性が主導する包摂的な気候正義運動の構築・強化の支援および、それらの運動の地域の既存の組織や運動とのつながりの構築

調査方法は、キリバスとフィジーのユース女性と共同設計した。データは、Tebbutt ResearchとfemLINK Pacificが太平洋地域全体で収集した。データ分析と報告書の執筆は、KiriCANのユース女性を含む気候アドボケイトとの参加型ワークショップで行われた。調査結果は、キリバスの気候アドボケイトとの参加型データ分析と解釈を通じて導き出された。

本プロジェクトでは、太平洋の10～18歳の女の子とユース女性の気候変動の実体験を記している。簡素化のため、本報告書のこれ以降では、この集団を「女の子」と表現するが、思春期から成人期初期を包括していることを認識している。本プロジェクトにより、女の子が自身のニーズを伝え、気候変動下で女の子の人権保護のために採り得る政策対応を特定することができた。また、気候正義の活動への参加に関する女の子の考えも明らかになった。本報告書は、この地域の気候正義に向けた女の子主導の行動に役立てることができる。

本報告書の構成は以下の通り。

- 背景と文脈
- 調査方法
- 調査結果: 気候変動が太平洋地域の女の子に与える影響
- 調査結果: 太平洋地域の女の子の気候正義に対する行動提案
- 調査結果: 太平洋地域の女の子の気候正義のための活動
- 気候変動下を生きる太平洋地域の女の子による提言
- 結論

## 2. 背景と文脈



ガダルカナル州、ソロモン諸島  
写真: Unsplash

本セクションでは、調査の枠組みを含むプロジェクトの背景と文脈を説明する。

### 2.1 背景

国連人権高等弁務官事務所は、気候変動に関する意思決定に女の子とその権利を確かに含めなければならないと主張している。

差別の交差性は、特定の女性や女の子の気候変動に対する脆弱性を更に高める恐れがあり、また、気候変動対策から女性を排除することは、その有効性を損ない、気候変動による被害を一層深刻化させる。多様な背景を持つ女性の、関連意思決定プロセスへの有意義かつ効果的で、情報が提供された上での参加は、権利に基づく、ジェンダーに配慮した気候変動対策の核心である。この包摂的なアプローチは、法的・倫理的・道徳的な義務であるだけでなく、気候変動対策を一層効果的なものにする<sup>3</sup>。

2023年、国連子どもの権利委員会は、気候変動に特に注目した、子どもの権利と環境に関する一般意見26号を発行した<sup>4</sup>。委員会は、子どもは環境保護の強力な推進力であり、気候変動への対処戦略の策定・実施には、子どもの意見が考慮されなければならないとしている。

各国は、地方・国・国際レベルで、子どもに影響を及ぼし得る法律・政策・規制・プロジェクト・活動の環境に関する意思決定プロセスの各段階において、子どもの意見が随時反映されるよう、年齢に適した安全で利用しやすい仕組みを確立すること。

太平洋地域の女の子は、家父長制・植民地主義・資本主義・エイジズム等の構造的抑圧により、気候変動に関する意思決定や提唱活動の場への参加を阻まれている。気候変動は、太平洋地域の女の子の不安や将来の不透明さを高め、既存の不平等を拡大させる。

太平洋地域での気候変動対策(軽減/適応/災害へのレジリエンス/損失・損害)において、女の子の権利の認識・開発、包摂・参加の強化は極めて重要だ。本報告書では、太平洋地域の女の子が、自身の権利・主体性・力・気候正義への決意が支援されなければならないと主張している。

### 気候変動と太平洋地域の女の子の権利

太平洋地域の女の子にとって、気候変動は深刻化し長期化している諸権利の危機である。太平洋諸国は、海面上昇や干ばつ等の慢性の気候変動の影響や、サイクロンや台風等の気象現象の激化を経験している。

太平洋地域では、気候変動が、植民地主義・家父長制・資本主義という、根深く交差した不公正の文脈の中で起きている。こうした構造的な不公正には、宗主国による経済的搾取や資源の争奪・同地域における核の遺産や進む軍事化・環境破壊などが含まれる。こうした抑圧構造は、食料や水の不安(特に漁業資源の減少)、不安定なガバナンス、広範な社会的な不公正やジェンダーによる不公正、移住、土地や文化遺産の喪失といった様々な不公正を引き起こしている。太平洋地域の女の子は構造的な不正義の影響を一番に受けているのだ。気候変動は、暴力からの解放・適正な医療や教育の享受・経済的発展や政治参加の機会等、彼女たちの様々な人権を脅かしている。

太平洋地域の女の子は、家庭内暴力や性暴力の被害率が世界でも特に高い。太平洋地域で暮らす思春期の女の子の4人に1人が身体的暴力を経験し、10人に1人が性暴力を経験している<sup>5</sup>。調査から、太平洋地域では気象災害の発生前・発生後に女の子が暴力を受けるリスクが高まることが判明した<sup>6</sup>。更に、根強い家父長制と保守的なキリスト教の慣習が、公共の場からの女の子の締め出し・性と生殖に関する健康と権利(SRHR)に関するタブー・性暴力の正当化と沈黙化等、女の子の自己決定を著しく制限している<sup>7</sup>。気象災害が同地域で頻度と強度を増すにつれ、女の子の安全に対する権利は著しく損なわれている。避難所は、女の子、特に障害を持つ女の子には、利用可能な避難設備や介助者の欠如により、安全ではない場合がある<sup>8</sup>。

太平洋地域の女の子は中等教育の享受に対し、多重の障壁に直面しており、結果として中等教育への就学率と修了率が低くなっている。例えば、ソロモン諸島では、後期中等教育で学ぶのは女の子の27%に過ぎず、2人に1人は中等教育を中途退学している<sup>9</sup>。PIAの最近の調査では、気象災害が5~19歳の太平洋地域の女の子185万人の教育と学習の機会を脅かしていることが判明した<sup>10</sup>。太平洋地域の女の子の教育的機会を阻む気候変動による障壁には、災害による通学手段の喪失、校舎の損壊や教員人材や教材の不足、気候変動による安全な住居を求めた移住、家事労働の増加等が挙げられる<sup>11</sup>。災害で女の子が教育を再開できず、家族が経済的に困窮すると、望まない妊娠やCEFMUのリスクが高まる。

太平洋地域の女の子は、栄養不良・皮膚疾患・熱関連疾患等の気候変動による健康被害を経験している<sup>12</sup>。これは、公平と権利を根拠とする、ジェンダーに配慮した医療の享受を阻む、様々な障壁により深刻化している<sup>13</sup>。彼女たちにとって、公正な水の供給は重要な問題だ。気候変動は、女の子(特に月経中)の清潔な水と衛生設備への公平なアクセスを著しく悪化させている<sup>14</sup>。不足状態が常態化し、大人が他の仕事に追われる中、女の子は家庭の飲料水や食料の調達を担うことが多くなっている。塩水の侵入や干ばつ等の気候変動の影響により、女の子は水の調達に長距離を歩くことになり、暴力の危険性が高まり、学校や遊びの時間が減る可能性がある<sup>15</sup>。



図1. AGiC1.0における要素



Brianna Fruean



Kathy Jetnīl-Kijiner

採掘等の採取産業の活動は、水源・サンゴ礁・農業関連の生計を汚染・破壊し、真水や食料の公平な入手を制限する<sup>16</sup>。この問題は災害時には更に悪化する。太平洋の多くのコミュニティでは、女性や女の子が初動対応者となり、避難所で炊事や家族の世話をする役割を担う。これは、女の子の身体・ウェルビーイング・精神的健康に重大な影響を及ぼす。気候変動下で家事労働やケアワークが増加し、女の子は専門家のカウンセリングや支援を一切受けられず、疲労・恐怖・トラウマを克服する方法を自力で探さなければならない。

### 太平洋地域の女の子の気候正義への参加とリーダーシップ

太平洋地域の平和と安全の鍵となるのは、女の子の参加である。だが、同地域は世界で最も女性の政治参加率が低い地域だ<sup>17</sup>。女の子はコミュニティ・教会・学校・ユースやスポーツ活動に積極的に参加しているが、家父長的な態度や慣習が、女性やユースのグループが村の会議や政策決定の場への参加を阻んでいる。そのため、女の子の意見や考えは、男性中心の意思決定から排除されている。この構造的な障壁は存在するが、太平洋地域では女の子とユース女性が気候正義のための行動を主導している。Kathy Jetnīl-Kijiner(マーシャル諸島)やBrianna Fruean(サモア)など、太平洋のユース女性気候アクティビストは、地方・地域・国際レベルで気候正義を提唱し、大きな影響を与えている。また、Pacific Island Students Fighting for Climate Change、Fridays for Future、Pacific Climate Warriors等、様々なユース気候正義グループも活躍している。

LGBTQIA+の女の子・障害を持つ女の子・地方や遠隔地に住む女の子は、特に気候変動による強制避難を経験し、コミュニティから離されることが多いため、地方・国内・地域・国際レベルで、気候正義の変革の担い手として支援されなければならない<sup>18</sup>。

太平洋地域の女の子は、自身の状況や経験を理解し、権利を認識し、ニーズを優先する能力を有す。彼女たちは、実体験や長老から口承された物語から学び、独自の災害へのレジリエンスを身に付け、気候変動の影響に適応可能である。彼女たちは、集団として行動し、自身の主体性と力を活用して、自身の生活やコミュニティを形成することができる。

本調査では、太平洋地域での気候変動の影響が既存の不平等をどう拡大し、女の子にどんな障壁を設けており、気候変動が女の子が大人になる過程で生活をどう変えていくかを検証している。そして、彼女たちが気候正義のためにリーダーシップを発揮し、影響力を高める様子を明らかにしている。

本調査では、同地域の女の子が気候正義の提唱活動を強化するためにできる行動を特定し、気候変動下で彼女たち全員の人権を保障するための戦略を共有している。

## 2.1 調査の枠組み

本調査はプランのAGiC調査の枠組みに基づき、実施された。AGiC 1.0の枠組みは、図1に示された通り、交差アプローチ、権利に基づくアプローチ、グラウンデッド・セオリー、フェミニズム理論、思春期中心という、5つの重要な方法論的要素から構成された。AGiC 1.0では、危機の思春期の女の子に特有の影響、彼女たちの不安の経験・対処法、危機下の女の子を支援するにはどのようなニーズや機会があるかについて調査した。

本シリーズの他の2つの報告書(サヘル地域とベネズエラ/コロンビア国境)で採用されたAGiCの枠組み2.0<sup>19</sup>は、支援環境の変化の可能性に関し、一層掘り下げている。本改訂版の枠組みでは、支援環境での相互作用する法的・政治的・社会的・文化的要因と、コミュニティレベルのレジリエンスを支える広範な制度的・政策的・社会経済的要因の重要性を分析した。

本プロジェクトでは、AGiCの社会生態学的枠組みを、女の子中心とするだけでなく、女の子主導(女の子自身が開発・推進する)とし、太平洋地域の状況に適合させた。調査方法は、ユース女性と共同設計し、彼女たちが文化に配慮し、文化的安全性を促すものとする調査の質問事項・手法・進め方を開発した。このAGiC調査への最新のアプローチでは、調査プロセスの一環として、行動計画や活動に携わる女の子により注目する姿勢が組み込まれている。

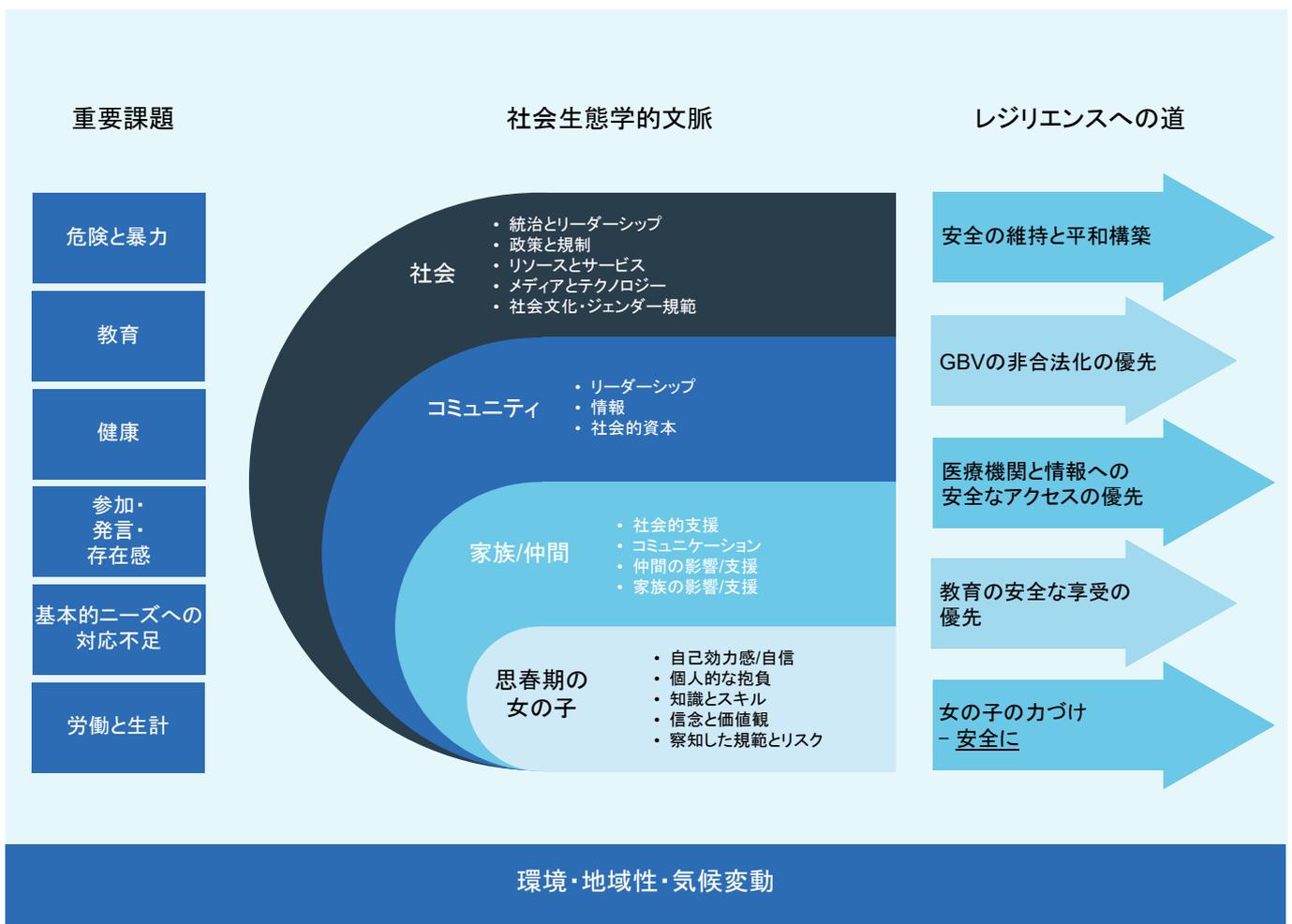


図2. AGiC 社会生態学的枠組み

学校から帰宅途中の女の子、西ガダルカナル、  
ソロモン諸島  
写真: PIA



# 3. 調査方法

本セクションでは、FPARのアプローチ・プロジェクトサイクル・プロジェクト参加者・倫理と保護等、プロジェクトの調査方法を説明する。

## 3.1 FPAR

本プロジェクトは、FPARの原則と実践に依拠している。FPARは、調査・ジェンダー正義・気候提唱活動を結合したものである。これは、コミュニティが促進・共に主導する循環的・発展的・共同設計のプロセスである。FPARでは、コミュニティが制度的不正義の解決に向けた調査・行動を実施する中で、計画・行動・観察・振り返りのサイクルを継続的に展開する。

FPARでは、意思決定は集合的かつ分権的に行われ、参加者は「共同調査員」となり、自身に関する専門家として知識を共同で形成する。このプロセスは、ユース女性が制度的不正義を理解し、家父長制の力の変革に積極的に取り組むのを促す。

APWLDは、調査と活動の手法としてFPARの開発に強い影響を与えた。ボックス1は、APWLDのFPARの9つの原則を記している。それらの原則が、本プロジェクトのプロセスに反映された。

## 3.2 プロジェクトサイクル

本プロジェクトは4つのサイクルで構成されている。

### サイクル1 - 共同設計

キリバスとフィジーのユース女性は、ワークショップにてFPARと気候正義に関する研修に参加し、プロジェクトのためのデータ収集方法を共同設計した。

APWLDのFPARの9原則<sup>21</sup>



図3. APWLDのFPARの9原則

## APWLDのFPARの9原則<sup>21</sup>

1. **目的は構造改革:** 私たちの調査目的は、女性が人権を享受する上で不可欠とみなす構造改革を起すことである。
2. **女性の声の増幅:** 本調査では、自身の生活や政策決定の専門かつ執筆者として女性に発言の機会を与えた。戦略的に彼女たちを調査員/専門家として配置し、政策対話を促した。
3. **コミュニティが主導:** 調査の意思決定は、調査プロジェクトの利害関係者である女性コミュニティによって行われる。
4. **アイデンティティと差別・排除・疎外の経験に対する交差的アプローチ:** 女性の経験・アイデンティティ・力の多様性を認識する。
5. **力の移動を目指す:** 本調査は、調査者/被験者といった従来の力の不均衡の是正を試み、また、ジェンダー化した個人的・政治的・構造的な力の源泉に挑戦・変化をもたらすことを目的とする。
6. **運動の構築/集団行動の促進:** 調査プロセス自体が結束を強める集団的なプロセスであるべきだが、本調査では更に、長期的な構造改革に向けて女性が集団で取り組めるよう力づけることを目指す。
7. **すべての能力を強化する:** FPARは常に能力開発に関係するが、能力開発と学習は、関与する関係者全員による集団的で政治的な行動であることも認識している。
8. **FPARでは参加者全員の事前の自由意志によるインフォームドコンセントが優先される。**
9. **参加者の安全・ケア・結末は必須である。**

初期データは、それらのユース女性とのインタビューやフォーカスグループディスカッションを通じて収集された。想定外の事情により、フィジーではプロジェクト実施までデータ収集を続けられなかった。

## サイクル2 - データ収集

データ収集は、Tebbutt ResearchとfemLINKPacificの支援を受けて行われた。Tebbutt Researchは、太平洋諸島調査を専門とする市場調査・社会調査機関である。femLINKPacificは、容易に利用できるメディアや情報を活用し、地方・国・地域レベルでの変革を促す組織である。両者の使命は、社会に存在する問題を可視化するため、多民族・多宗教の設立理念を認識・支持し、コミュニティのための強力で効果的なフェミニストメディアのプラットフォームとなることである。

データは以下の2つの方法で収集された。

- 太平洋の6カ国(FSM・フィジー・キリバス・ソロモン諸島・トンガ・ツバル)の10~18歳の女の子319人を対象とした**地域調査**。調査では、女の子が考える気候変動の影響について質問し、気候変動が基本的ニーズ・健康とウェルビーイング・教育と生活・コミュニティと文化等の領域で彼女たちの生活にどう影響しているかを尋ねた。次に、太平洋地域の女の子への気候変動の影響に対処するために、政府や国際社会ができることは何か、質問した。最後に、女の子が気候正義の活動にどう参加でき、また参加の促進要因と障壁は何かを尋ねた。Tebbutt Researchは、都市部・地方・離島に住む女の子と対面式で調査を行うため、現地のユースを関与させた。女の子に適当な回答を回答の選択肢の中から選んでもらう調査質問では、回答の選択肢の一覧を表示するショーカードを使用した。このショーカードにより、やりとりが活性化し、女の子は積極的に参加でき、思考が促され、また回答の選択肢の一覧を目の前に見ることができたため、回答をより容易にした。Tebbutt Researchは、女の子の回答をオンラインデータベースにアップロードし、匿名化されたスプレッドシートを調査チームと共有した。
- フィジーとキリバスの10~18歳の女の子34人が参加した、**芸術を通じた語り**。彼女たちは、気候変動の自身の生活への影響・政府に求める行動・気候正義のための女の子主導の活動に関し、絵画・動画・プレゼンテーションを作成した。

femLINKPacificは、地方や遠隔地の女の子が気候変動の実体験の語りを記録するのを支援するため、独自の多様なネットワークからユース・コミュニティ拠点を動員した。女の子は、オンライン調査プラットフォーム(Qualtrics)に写真や動画、説明文をアップロードするよう支援された。

### サイクル3 - 参加型データ分析と執筆

ユース女性を含むKiriCANの気候アドボケイトは、キリバスでの参加型ワークショップで、データを共同分析し、提言を策定し、報告書の執筆に情報を提供した。本報告書は後に、全パートナーの協力のもと、草案作成・レビュー・最終化が行われた。

### サイクル4 - 女の子主導の提唱活動

KiriCANの気候アドボケイトは、気候提唱活動とキャンペーン計画に関する研修に参加した。本報告書の公開後、太平洋のユース女性は、PIAとKiriCANの支援を受け、気候正義を訴える女の子主導の提唱活動に参加予定である。

プロジェクトサイクル全体を通じて、共同調査員は、プロセスと学習に対する継続的な考察に取り組んだ。例えば、データ分析と提唱活動のワークショップでは、ジェンダー・女の子・気候変動・調査と提唱活動・提唱活動にデータを統合する方法に関し、新たな学びを得た、と共同調査員が言及した。「データは点と点を結びつける」と、説明する人もいた。

## 3.3 プロジェクト参加者

本プロジェクトには、太平洋6か国(FSM・フィジー・キリバス・ソロモン諸島・トンガ・ツバル)の350人超の女の子が参加した。

**調査方法の共同設計:** キリバスとフィジーの18~24歳のユース女性12人が調査の共同設計を行った。

**調査:** 319人が調査に参加し、内318人が女の子、1人が第3のジェンダーと回答。調査参加者の年齢は10~18歳(平均年齢14.6歳)。10歳は全体の7%だけで、18歳がほぼ20%を占める。FSM・フィジー・キリバス・ソロモン諸島・トンガ・ツバルから参加者が集まった。女の子は主に地方や村(52%)または都市部や町(46%)に住んでおり、離島に住む人はわずか3%だった。多くの女の子が先住民(38%)であると認識しており、21%が宗教的マイノリティ、13%が民族的マイノリティであると認識していた。19人の参加者(6%)が障害があると回答した。調査結果では、障害の有無による大きな違いは見られなかった。

ソロモン諸島西ガダルカナルで海岸近くで遊ぶ、カヌーに乗った子どもたち  
写真: PIA

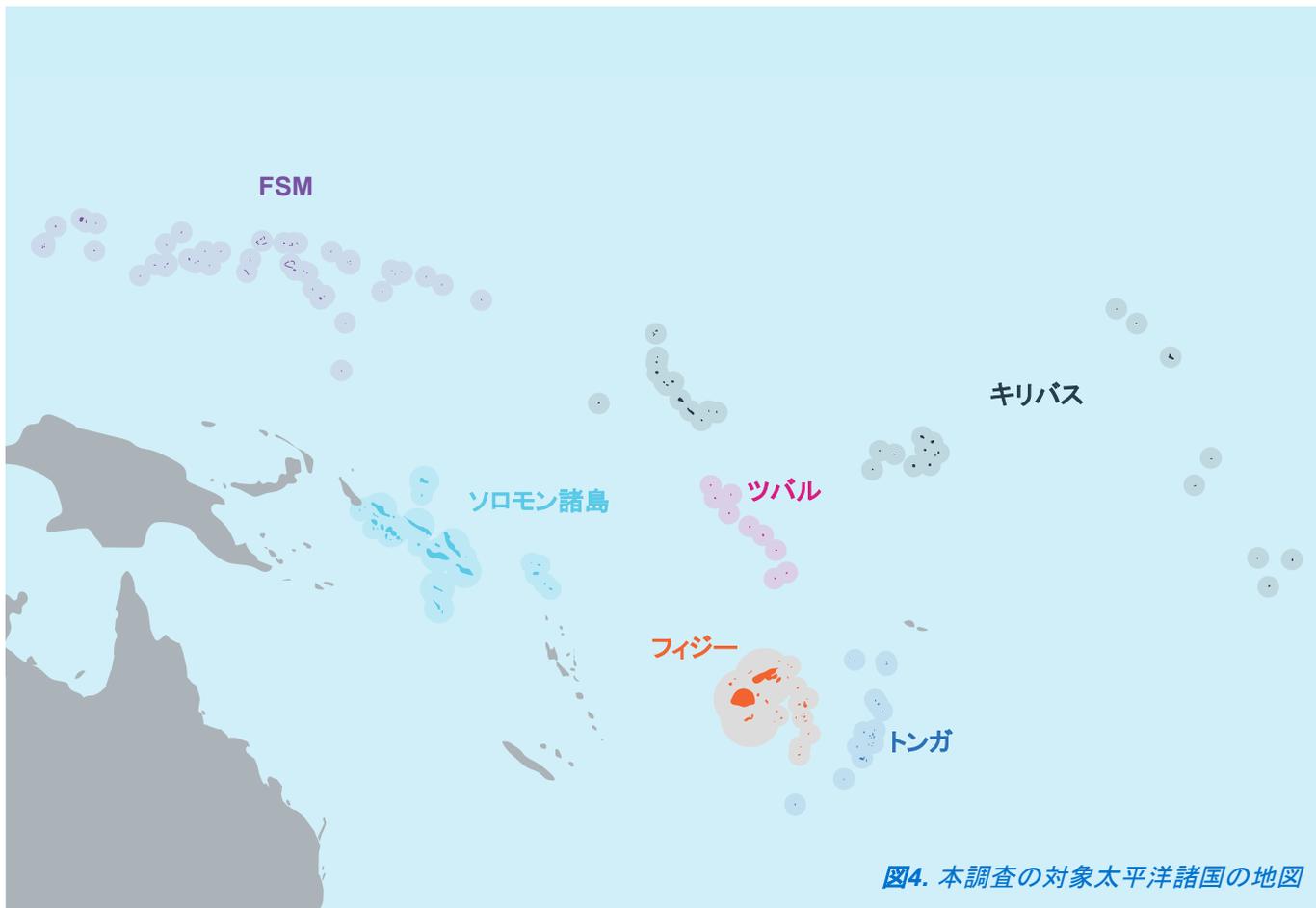


図4. 本調査の対象太平洋諸国の地図

表1. 調査参加者の実体験

区分	回数	割合
LGBTQIA+	1	0.3%
障害者	19	6.0 %
先住民	122	38.2%
民族的マイノリティ	41	12.9%
人種的マイノリティ	30	9.4 %
宗教的マイノリティ	68	21.3%
いずれでもない	63	19.7%
回答を控える	24	7.5%

芸術による語り: フィジー (n=33) とキリバス (n=1) から、34人の女の子が、気候変動の実体験を題材に作品や物語を制作した。彼女たちの年齢は10～18歳で、大半が地方や村に住んでいる (n=29)。彼女たちの多くは先住民 (n=20) であると認識しており、2人は障害があると述べた。

参加型データ分析・執筆・提唱活動ワークショップ: 本ワークショップには、キリバスから14人が参加した。内9人が女性、5人が男性で、4人はユース女性であった。

### 3.4 倫理と保護

女の子・コミュニティ・メンター・調査員・パートナーの保護は、本プロジェクトで最優先事項であった。本プロジェクトは、Edith Cowan大学のHuman Research Ethics Committeeにより審査・承認された<sup>20</sup>。保護戦略は、プランの職員によっても確認された。保護リスク評価は各サイクルでプロジェクトパートナーによって実施され、保護戦略はプロジェクト全体を通じて共同で設計・実施・検討された。

- PIAはパートナー団体の保護能力を評価し、そのギャップを埋めるための計画を共同設計し、共同報告手順・役割・責任に関する明確な合意を交わした。全てのプロジェクト契約には、保護と性的搾取・虐待・ハラスメント防止に関する条項が含まれた。
- プロジェクト職員と現地のデータ収集者は、保護と倫理に関するオンライン研修に参加し、プラン・インターナショナルの「子どもとユースの保護に関する全体方針」・「行動規範」・「性的搾取・虐待・ハラスメント防止に関する方針」について説明を受けた。プロジェクト職員と現地のデータ収集者は、警察・経歴審査を受け、プランの行動規範に署名した。
- サイクル1(共同設計)では、ユース女性がリスク・調査倫理・保護上の配慮・文化的な配慮、実行可能な適切な保護措置について話し合った。
- 保護報告および照会のマッピングとプロトコルは、虐待の事例の情報開示依頼または報告するためのプロセスと機関を概説するために作成された。各活動において、保護の担当者が指名され、必要に応じて懸念事項に対応し、報告および照会プロセスを支援できるよう、研修を受けた。
- 女の子とその保護者には、平易な英語で書かれたプロジェクト情報シートとインフォームドコンセントの書類が配布された。
- 全てのワークショップで、倫理と保護に関する議論が行われ、安全で公平な参加のための基本ルールの共同策定が行われた。パートナー職員は、ワークショップ参加者と事前・事後協議を行った。
- オンラインワークショップでは、安全なリンクや登録の使用・デジタルセキュリティに関する説明会・プロジェクト職員向けの研修・オンライン会議には最低2人の大人を参加させる等のサイバーセキュリティ規定が適用された。
- プロジェクト職員と現地のデータ収集者は、必要に応じて保護的干渉を行うための研修を受けた。
- 全てのデータを特定不可能な状態にし、ECUの安全なオンラインデータストレージに安全に保管した。データは2037年に破棄される(最年少参加者が25歳に達した後)。

### 3.5 制限事項

本プロジェクトは、COVID-19パンデミックと太平洋地域での気候変動の影響により、大幅に遅れが生じた。2020年1月～2024年6月の間、キリバス・フィジー・オーストラリアのプロジェクトパートナーは、山火事・COVID-19パンデミック・サイクロン・深刻な洪水・干ばつ等、様々な環境問題に直面し、プロジェクトをしばしば中断させた。2020～22年にはオーストラリアと太平洋諸国間の国際渡航が禁止され、その結果、プロジェクトの実施は共同設計以降フィジーでは行われなかった。サイクル1は複数のオンラインワークショップを通じて実施された。

これらの遅延や地域内の政治的複雑さにより、ユース女性が自身でデータ収集をすることは非常に困難であった。従って、サイクル2は、都市部・地方・離島コミュニティにおけるデータ収集を支援するために、地元のユースを関与させたTebbutt ResearchとfemLINKPacificとの提携により実施された。

サイクル3は、キリバスで気候アドボケイトと対面式で実施されたが、プロジェクトの遅延と優先事項の競合により、当初プロジェクトの共同設計に関与したユース女性は参加できなかった。しかし、他のユース女性がそのワークショップに参加した。リソースの制約により、サイクル4ではキリバスからの気候アドボケイトのみが関与した。KiriCANは、報告書公開後に気候正義活動の計画と実施に関与するキリバスの女の子を支援する予定である。

これらの困難により、プロジェクトをFPARの原則と実践に完全に準拠させることは限界がある。だが、プロジェクトにおける豊富なデータと市民社会の関与は、対象範囲を強化し、太平洋における女の子主導の気候正義活動の可能性を高める。

本報告書で扱う各語りでは、女の子のプライバシー保護のため、名前や特定できる情報は変更されている。

フィジーの伝統舞踊家  
写真: Johnny Silvercloud



# 4. 調査結果: 気候変動が太平洋地域の女の子に与える影響

本セクションでは、フィジー・FSM・キリバス・トンガ・ツバル・ソロモン諸島の女の子への気候変動の影響に関する調査結果を示す。気候変動の影響について、特に女の子の基本的ニーズ・健康とウェルビーイング・教育・遊びと生計・コミュニティと文化への影響について論じる。

## 4.1 気候変動の影響

本調査では、女の子が経験した気候変動の影響を挙げるよう求めた。最も多かった回答は「暑くなった」であった(図5参照)。他に多かった回答は、水不足・海面の上昇・雨の増減・蚊の増加・嵐やサイクロン等であった。

女の子の回答は場所により違っていた。全般的に環礁国ツバルの女の子は、気候変動の広範な影響を挙げる傾向が最も強かった。海面上昇は、ツバル

(70%)、キリバス(57%)、FSM(42%)の女の子が挙げる傾向が強かった。海岸浸食は、環礁国であるツバル(58%)とキリバス(51%)の多くの女の子が挙げ、一方で洪水はトンガ(58%)の多くの女の子が挙げた。嵐やサイクロンは、トンガ(64%)とツバル(44%)の多くの女の子が訴えた。自然環境の悪化(34%)や不作(20%)の問題はツバルで多くの女の子が経験し、ソロモン諸島の女の子は蚊(50%)に悩まされることが多い。共同調査員は、ソロモン諸島ではマラリアがリスクであると指摘した。水不足は主にツバル(72%)、キリバス(51%)、FSM(39%)、トンガ(38%)の女の子が経験している。

気候変動の影響

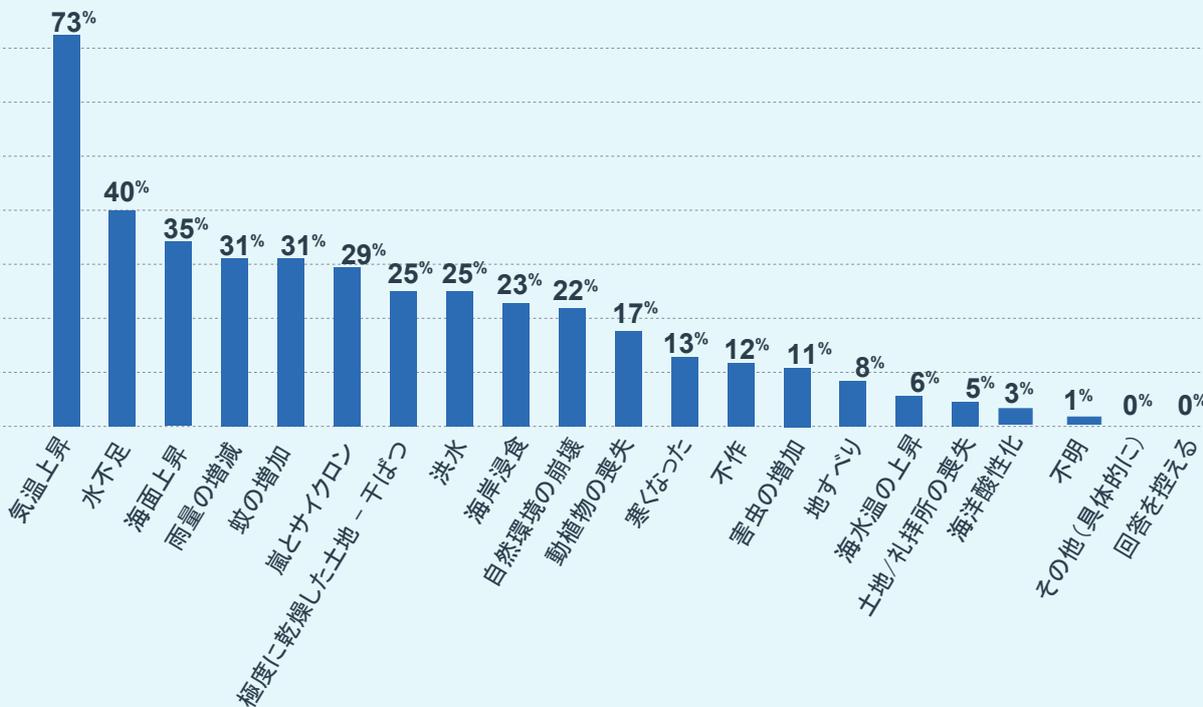


図5. 女の子が経験した気候変動の影響

これらの気候変動の影響について回答する割合は、離島の女の子であればあるほど高く、特に水不足・自然環境の崩壊・動植物の喪失・干ばつ・海岸浸食・海面上昇・雨の増減などが挙げられた<sup>22</sup>。都市部や町に住む女の子よりも、地方や村に暮らす女の子の方が水不足を訴える傾向が強く、都市部の女の子は気温上昇を訴える傾向が強い。地方や都市部の女の子は、他の影響に関しては同程度で経験している。全般的に、年齢による大きな違いは見られないが、16～18歳の女の子は、10～12歳の女の子よりも、各気候変動の影響を経験する可能性が若干高い。これは、年齢が上がるにつれて気象災害に遭う可能性が高まるためだと考えられる。

本調査では、女の子に、気候変動が家庭・学校・コミュニティでの生活に影響を与えているか尋ねた(図6参照)。この質問に「はい」と答えた女の子は合計で82%に上った。「はい」と答えた割合が最も低かったのはFSMの女の子で、ツバルでは女の子全員が「はい」と答えた。

調査結果は、気候変動は太平洋地域の女の子の生活に影響を与え、海拔の低い島々の女の子は、特に海面上昇により、最も危険にさらされていることを示唆した。

気候変動が自身に影響を与えているかという問いに「はい」と答えた女の子の割合

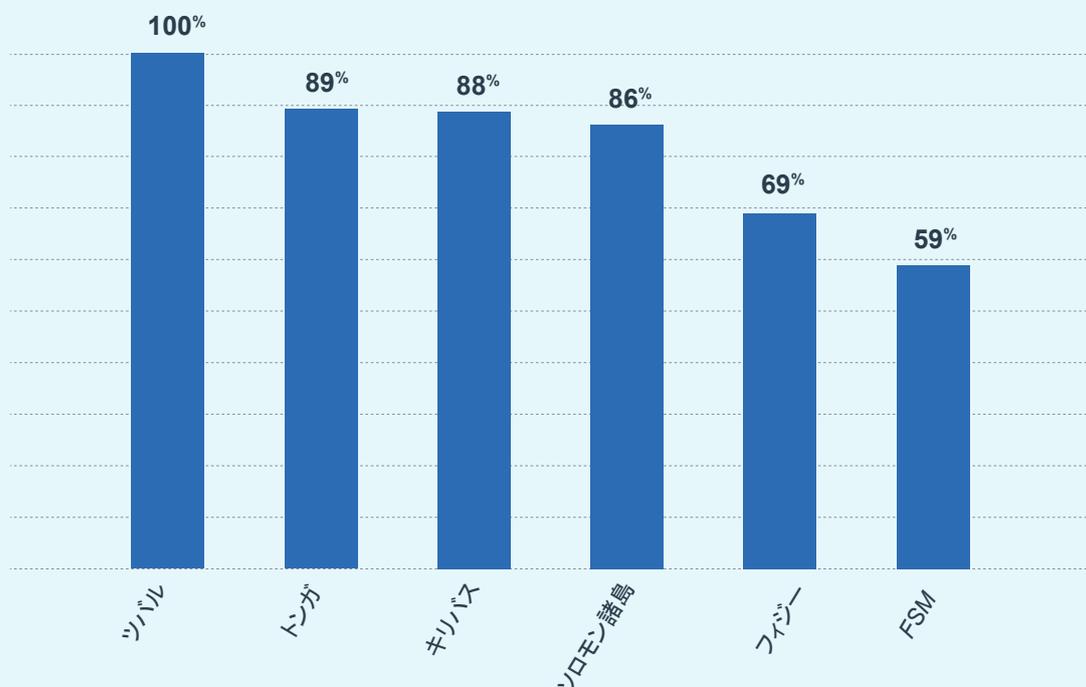


図6. 気候変動の生活・学校・コミュニティへの影響(国別調査回答)

## Saloteの語り

Saloteはフィジーの地方に住む16歳の先住民の女の子である。彼女は以下の話をしてくれた。

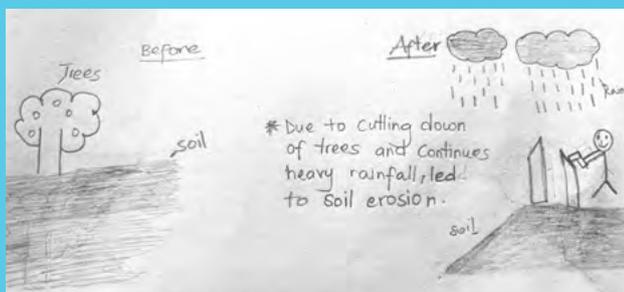
気候変動は、私たちの環境における深刻な世界的課題です。環境に影響を与える急激な変化です。世界が憂慮すべき、私たちの日常生活における大きな問題です。これらの変化により、私たちは深刻な問題に直面しています。その中には、

自然災害も含まれ、地滑りは、丘の上に位置する私たちのコミュニティに影響を与えます。以前は豪雨に見舞われることはありませんでしたが、今は豪雨による地滑りが発生しています。私たちは昔、奴隷としてフィジーに連れてこられたソロモン諸島出身者(black birding)の子孫なので、移転できる土地もありません。

## Mereの語り

Mereはフィジーの地方に住む13歳の先住民の女の子である。

昔は木が繁り、土壌もしっかりしていましたが、伐採と豪雨で土壌浸食が起きました。



## 4.2 気候変動の女の子の基本的ニーズへの影響

気候変動が生活に影響を与えていると答えた女の子に、基本的ニーズへの影響を回答の選択肢の中から挙げるよう求めた。主な問題は、清潔で安全な水の入手・十分に良質な食料の入手・住居であった。

### 清潔で安全な水の入手

環礁諸国で真水は希少な資源であり、特に真水化プラントや雨水を貯めるタンク等のインフラが不足する地方や遠隔地では、深刻である。地方や遠隔地の多くのコミュニティでは、自宅用の真水を汲むために、1つの蛇口に何時間も並ばなければならない。更に、これらの島々は地下水に大きく依存しており、太平洋の多くのコミュニティでは、地下水が年間を通じて信頼できる唯一の真水の供給源となっている。海面上昇と降雨パターンの変化により、水資源は一層脅威にさらされている。これは、特に都市部での人口増加と汚染により一段と深刻化している。

「洪水時の飲料水は清潔じゃないです」

女の子、14歳、都市部、ソロモン諸島

本調査で気候変動の女の子の基本的ニーズへの影響として最も挙げられたのは、清潔な真水の不足であり、47%の女の子が回答した。この割合はツバルとキリバスではより高く、離島の女の子にとっても大きな問題とされた。洪水・干ばつ・海面上昇により水不足や海水が混じった水の発生を経験している女の子もおり、特に井戸等の水源が塩分や不純物で汚染されていれば、なおさらである。

気象災害で、女の子が通常家庭で責任を担っている真水の収集が困難になることがある。彼女たちは、真水の不足は衛生面に影響し、体を洗ったり、月経管理するのが困難になると話す。多くの女の子は、飲む前に水を沸騰させなければならない。

### 十分に良質な食料の入手

環礁国には、十分な土壌や土地がなく、高価な輸入生鮮食品や安価な缶詰食品に大きく依存しており、食料不安が重大な問題となっている。ワークショップで、太平洋諸島の人びとの肥満率・糖尿病罹患率・非感染性疾患罹患率が世界で最も高い水準であることが認識された。サイクロン・嵐・海岸浸食・洪水は真水の供給に影響を与え、土地の塩分濃度を高め、農業に適した肥沃な土地や新鮮な果物・野菜の入手源を減らす。これが、不健康な缶詰食品への更なる依存に繋がるのだ。

本調査では、32%の女の子が「気候変動で食料の質が低下した」と回答した。更に、27%の女の子が、「食料が不足している」と答えた。これらの回答は、ソロモン諸島・トンガ・ツバルや、離島や地方の女の子に多くみられた。19%の女の子が空腹を訴えており、これはトンガとキリバスではより高く、また地方の女の子では24%に上る。水不足により食料を育てるのが困難で、サイクロン時に食料の輸入が難しいことを訴える女の子もいた。一方、大雨により伝統的なロヴォピット(フィジーの地下窯)が浸水したとの声もあった。

「水質が悪く、家の周りで食料を栽培できません」

共創ワークショップ参加者

太平洋のコミュニティは、食料・収入・文化的精神的なつながりの面で、海洋に強く依存していると女の子は説明した。太平洋では、酸性化・水温上昇・乱獲が深刻化しており、汚染は魚などの海洋の食料源を害する等、海洋生態系を弱体化させている。

## 気候変動の各国の基本的ニーズへの影響

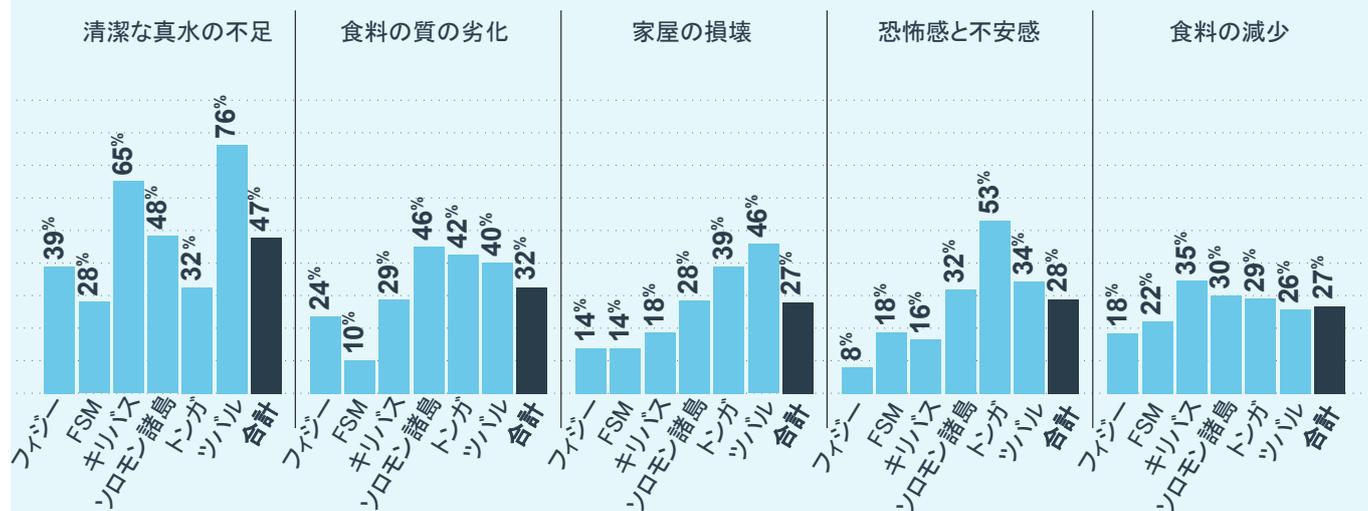


図7. 気候変動の女の子の基本的なニーズへの影響(国別、上位5つの影響)

### Mariaの語り

Mariaはフィジーの地方に住む17歳の先住民の女の子である。彼女の村の飲料水は、井戸から得ている。動画の中で、Mariaは、家畜・菜園・日々の生計の大部分に使用する川に干ばつが及ぼす影響について説明している。彼女は言う。

私はフィジーの地方のコミュニティに住んでいます。河川や小川の流量の減少は、水中の汚染物質の濃度を高め、汚濁を引き起こします。家畜は飢え、時には病気になることもあります。私たちは井戸の

水を飲料水としており、干ばつの間は節水をしなければなりません、それが適切な衛生状態を保つ妨げになってはなりません。私は清潔で良質な飲料水を飲みたいです。

私は、現政権が、新しい保全技術・コミュニティの統治とパートナーシップ・私のコミュニティでの教育と啓発強化への投資を強化することを求めます。

#### 「海の魚は毒があって食べられません」

女の子、17歳、地方、ツバル

「私たちのいつもの日課に影響します。炊事のために早朝から薪を拾いに行きますが、サイクロンが来る場合は外出できません。身を守るために、家の中にいるしかありません」

先住民の女の子、13歳、地方、ツバル

また、共創ワークショップに参加したユース女性も、気候変動が漁場に影響を与えているとし、「女性や女の子は魚を捕るために、場所を変えるか、より深く潜らなければなりません。船で移動しなければならないので、これは大変です」と説明した。(共創ワークショップ参加者)

#### 住居

本調査では、27%の女の子が気候変動により自宅が損壊したと回答した。これは洪水・地滑り・サイクロン・海面上昇等によるものである。自宅が別の場所に再建されると話す女の子もいれば、移住を余儀なくされたと話す女の子もいた。ワークショップ参加者は、太平洋地域全体で、災害からの再建ができず、雇用・より充実した公共サービス・安全を求めて都市部や町に移住する人が増えて、都市のスラム街が拡大していることを確認した。

## Filoの語り

Filoはフィジーの地方に住む14歳の障害を持つ女の子である。

絵に描かれた通り、私は川の近くに住んでいます。悪天候時には、川は汚れた水でいっぱいになります。私は、入浴や洗濯、また断水時には飲料水としても川の水を使います。私たちは数マイル歩いて川から水を汲まなければなりません。これは、障害を持つ私にとって、健康と身の安全に重大な影響を与えています。

清潔な水を手に入る母親たちの負担を軽減するために貯水タンクを設置し、また、皮膚病や疾病を減らすために、私のコミュニティの水源を整備してほしいです。保健省とインフラ省が私のコミュニティを訪問し、現在の問題を把握し、啓発活動を行うよう要請します。優れた貯水タンクが設置され、水源が整備されれば、私たちは清潔で安全な水を手に入れ、健康になるでしょう。



本調査では、9%の女の子が一時避難所での生活や転居を経験しており、ツバルとソロモン諸島ではその割合が高く、離島では極めて高いことが判明した。また、8%の女の子が避難所が危険だと感じると述べた。

共同調査員は、住居再建の支援は伝統的な家庭のみを対象とする場合が多いと説明した。女性が世帯主である家庭・LGBTQIA+の人びと・シングルマザー・高齢者の多くは、支援の優先対象とはならず、住居再建に独自の解決策を模索しなければならない。そうした家庭は、貧困線以下で暮らしている可能性が高い。

本調査では、22%の女の子が、気象災害で送電線が断線し、電気がないのでテレビや電話、インターネットが使えないと回答した。これはツバル・FSM・キリバス・離島や地方の女の子が訴える割合が高かった。橋・送電線・波止場の修復に何年もかかることが多く、中には修復されないこともある。これは、全ての人の平等な機会の獲得を保障するインフラをコミュニティが享受することを制限する。

### 災害時のアクセス性と包摂

災害時にアクセス性と包摂の問題に苦しむ女の子もいた。14%の女の子が、「気候変動や災害に関する情報の入手が困難である」と答えた。この割合はソロモン諸島(34%)や都市部に住む女の子(20%)では更に高かった。共創ワークショップでは、参加したユース女性が、災害時に情報の入手が困難な女の子がいると指摘した。プロジェクトパートナーは、太平洋の多くのコミュニティでは携帯電話やラジオによる情報の入手が限られており、災害情報が安定して公平に提供されておらず、翻訳や平易な言葉による情報も欠如していると説明した。災害情報の入手は、障害を持つ女の子にとって特に問題である。

「私の友人には視覚障害や聴覚障害を持つ人もいて、サイクロンに関する情報を入手できません。テレビのニュースを見ても、通訳がないので状況が把握できません。私のグループ、特に視覚や聴覚に障害を持つ友人や同僚に対して、政府からの支援がまだ不十分です。障害者に配慮した設備が避難所や日常でさえも不足しています」

### 共創ワークショップ参加者

共創ワークショップに参加したユース女性は、災害時に女の子が経験する他のアクセス性や包摂の問題を指摘した。彼女たちは、避難所での障害者に配慮した設備の不足・プライバシーの問題・障害を持つ女の子との意思疎通の不足を指摘した。

「現状、障害者向けの安全な空間や特定の場所の確保については、個々のニーズが異なるため、検討されていません。視覚障害者には介助者が必要であり、地方では基本的な手話が主ですが、国際標準に準拠した高度な手話の認識を広げる必要もあるため、聴覚障害者には高度な手話通訳者が必要です。これは優先的課題であり、都市部やその他の場所を訪れた際に困らないようにしなければなりません。障害を持つ女性である場合、これは大きな課題となります。

村では、障害者とそのニーズは災害時やコミュニティの復興段階で度々、そしてほとんどが忘却されてしまいます。地方の障害者が災害対応から除外されることも多いのです。現状、災害が発生している、または発生しそうであることを知らせるために、身振り手振りで合図を送る村長がいるコミュニティはわずかです。視覚障害者には笛が吹き鳴らされ、聴覚障害者には、警告や緊急事態のレベルで異なる旗や標識が示されます」

共創ワークショップ

学校の子どもたち、西ガダルカナル、ソロモン諸島  
写真: PIA



### 4.3 気候変動の女の子の健康とウェルビーイングへの影響

本調査では、女の子が気候変動の彼女たちの身体的・精神的健康とウェルビーイングに与えている多くの影響を指摘した。「気候変動は健康やウェルビーイングに影響しない」と答えた女の子はわずか0.6%であった。

#### 身体的健康

太平洋地域の女の子の身体的健康に対する気候変動の影響として最も挙げられたのは、「猛烈な暑さ」「のどの渇き」「疲労を感じる」(48%)だった。これはツバル・ソロモン諸島・キリバス・FSMの女の子が特に訴えた。地方や遠隔地に住む多くの女の子には、診療所や病院の利用も困難だという。全体で、7%の女の子が「気象現象で医療機関で医療を受けられない」と回答し、ソロモン諸島(16%)とツバル(14%)ではその割合が高く、離島の女の子では38%に上る。

彼女たちは、猛暑による健康被害として、暑く乾燥した日に覚える熱とかゆみ・頭痛・腹痛・疲れ・ほてり・発汗・日焼け・発疹・発熱・汚れて埃っぽい空気による呼吸困難・蚊に刺される等を訴えた。

「気温が高いと、頭に湿疹や膿疱ができます。頻繁な天候の変化は、息切れや頭痛等の不調の原因となります。暑い晴れた日には頭痛がします」

先住民の女の子、10歳、都市部、フィジー

「天候によって蚊に刺されやすくなります」

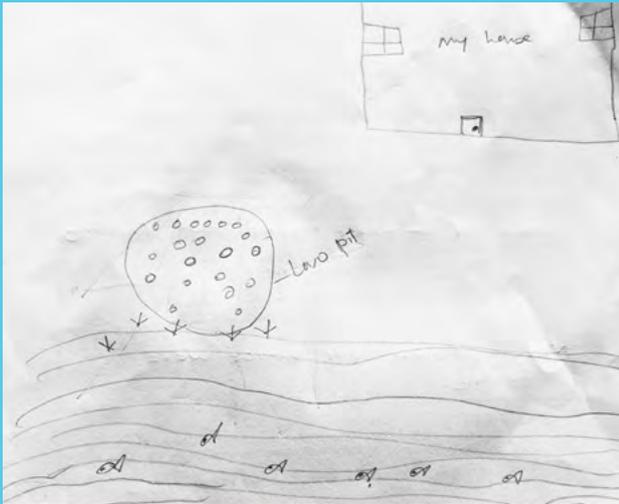
先住民の女の子、18歳、地方、FSM



## Susanaの語り

Susanaはフィジーの地方に住む13歳の先住民の女の子である。

私たちの地下窯は川のそばにあります。洪水の被害に遭ったことはありません。でも、最近豪雨により、突発的な洪水が起こり、水位が上昇して川底が破壊され、私たちの地下窯も水没してしまいました。



32%の女の子が肌や胃腸の健康問題を訴えており、特にキリバス・ツバル・ソロモン諸島で顕著である。女の子は、その原因として、調理や入浴に使う清潔な水の不足・不衛生な環境・過密状態・栄養不足・埃っぽい空気を挙げた。陸上・海上での不適切な廃棄物処理もまた、汚染の原因となり、それが直接女の子に健康被害を及ぼしている。これは彼女たちの肌に影響し、病気を蔓延させ、下痢を引き起こす。彼女たちは、洪水や干ばつが病気をもたらすとも述べた。

「いつも汚れた水を飲んでいたので、私は毎日下痢に苦しんでいました」

民族的マイノリティの女の子、15歳、地方、キリバス

衛生と清潔さに関して、17%の女の子が、気候変動が真水供給に影響を及ぼし、入浴・洗濯・月経管理に困難をきたしていると回答した。恐れや内気さ、障害のために、対処が難しくなる女の子もいる。

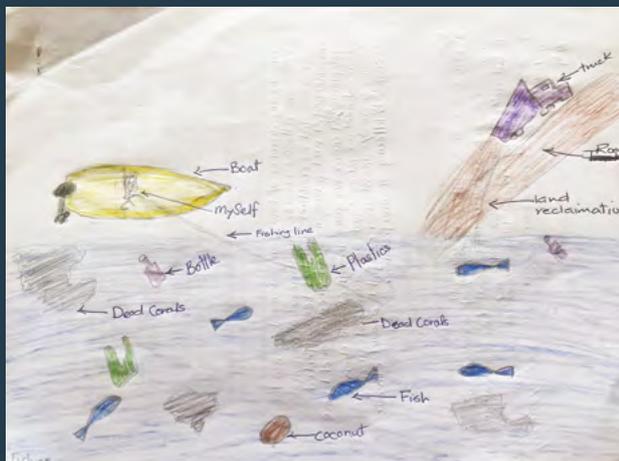
「特に月経中は、塩分や不純物を含んだ劣悪な水で入浴するのは危険です」

共創ワークショップ参加者

## Ruciの語り

Ruciはフィジーの地方に住む15歳の先住民の女の子である。

私の絵は、村で漁獲量が減少し、それが私の生計に影響を与えている状況を描写しています。昔は漁にでると、海藻や海ブドウ、魚などが沢山採れましたが、今は埋め立てや海へのゴミの投棄により、それが絶滅してしまいました。海洋資源が再び成長するよう、一定期間、禁漁措置を講じて、これを食い止めることができます。



12%の女の子がサイクロンや洪水等の災害による人の死を経験しており、ソロモン諸島とトンガではその割合が高い。

### 精神的健康とウェルビーイング

本調査データは、太平洋地域の女の子の精神的健康とウェルビーイングの様々な面に気候変動が影響していることを示した。女の子は気候変動について様々な感情を示した。

**心配:** 42%の女の子が将来を心配している。これはツバル(60%)・キリバス(49%)・トンガ(49%)で顕著で、また16~18歳の女の子(48%)や離島の女の子(88%)の間でも顕著である。この理由は、それらの地域は海面上昇の危機に瀕し、高等教育や雇用への機会が少ないためであると推測される。

## 気候変動の各国の健康とウェルビーイングに与えた影響

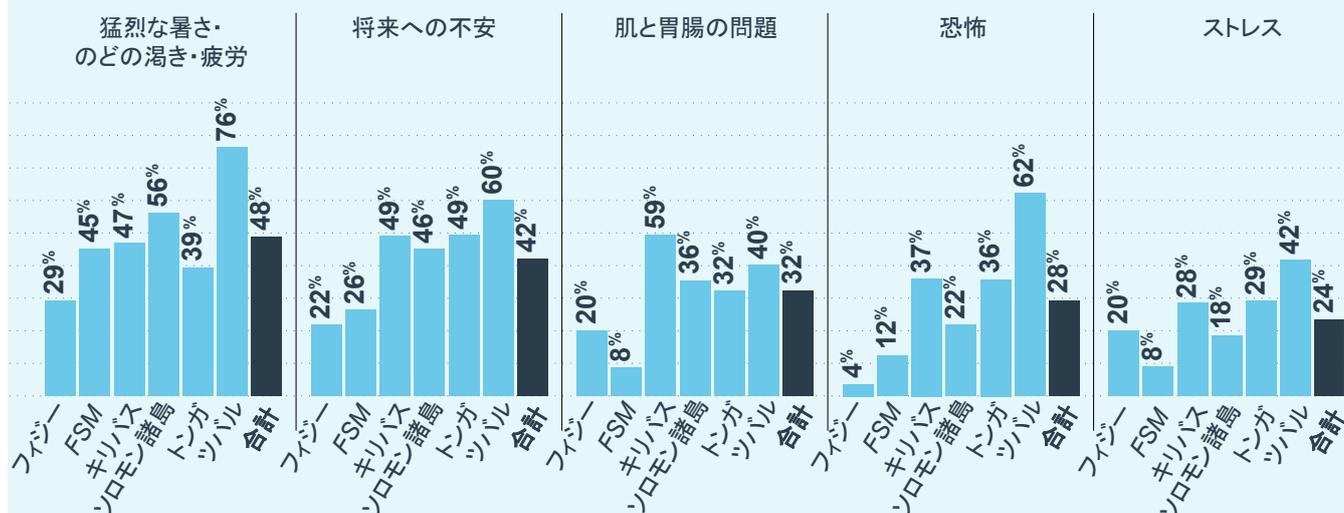
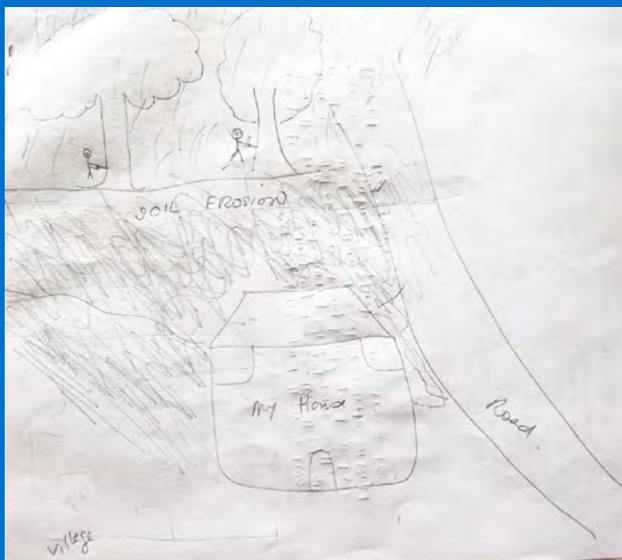


図8. 気候変動の女の子の健康とウェルビーイングへの影響(国別、上位5つの影響)

### Taleiの語り

Taleiはフィジーの地方に住む15歳の先住民の女の子である。

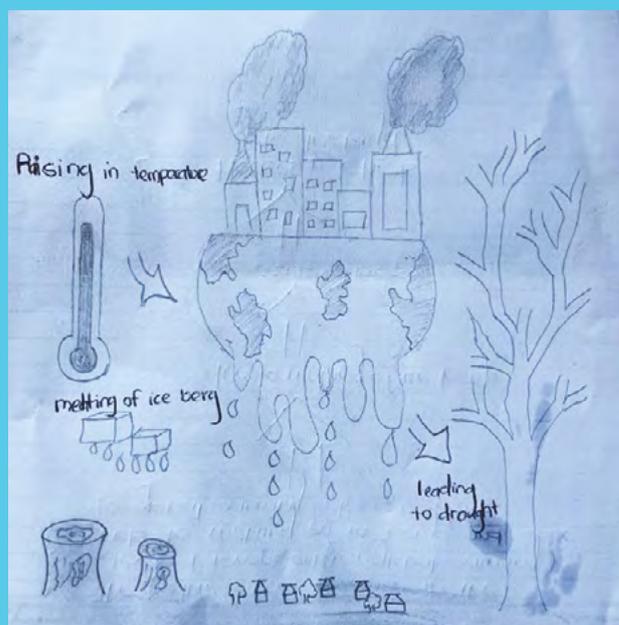
私の家の裏庭には、2本のマンゴーの木があり、家に日陰を与えてくれました。彼らはその木を切り倒してしまい、豪雨の際には、土壌浸食で家の裏が塞がれてしまうため、別の場所に避難する必要が生まれてしまいました。現在、土壌浸食を防ぐために、植樹を始めました。



### Watiの語り

Watiはフィジーの都市部に住む18歳の女の子である。

私の絵は、氷山の融解につながる気温上昇や地球温暖化を表現しており、地球温暖化により干ばつや海面上昇が起こり、島の家屋が破壊される様子を描いています。



**恐怖:** 29%の女の子が気候変動を恐れている。これはツバル(62%)・キリバス(37%)・トンガ(36%)・離島の女の子(88%)で顕著である。また、10~12歳の女の子(33%)もやや高く、「雷」や「高波」を恐れる女の子もいる。

「将来が心配です。家族を失うのではないかと心配です」

女の子、11歳、都市部、ソロモン諸島

「学生として、今、災害が頻繁に起こり、特に今何もせずにいるなら、将来が心配です。事態は悪化する一方でしょう」

共創ワークショップ参加者

「気候変動の影響に関する情報は多いですが、将来に関するものが最も気になります。私たち(次世代)は、故郷の島がどうなるかわかりません」

先住民の女の子、18歳、地方、キリバス

「気候変動に恐怖を感じます。家でじっと今後のことを考えています」

女の子、16歳、都市部、ソロモン諸島

「大洪水が起きたとき、恐怖に苛まれていました」

女の子、15歳、地方、ソロモン諸島

## Bulouの語り

Bulouはフィジーの地方に住む10歳の先住民の女の子である。

私の村は海岸沿いに位置しており、満潮時には必ず内陸まで水が押し寄せ、しょっちゅう村の半分が水没します。満潮により、私の家の玄関先までゴミが押し寄せ、私に健康被害を及ぼしています。また、学校や町に行く際の道路状態も非常に悪いです。この道路状態のせいで、学校の勉強に関する町のサービスをほとんど利用できず、バスも私の村まで来ません。これは私の健康と安全に影響を与えています。インターネット環境の悪さも問題で、最近の学校の課題の大部分は調査が必要ですが、主にインターネット環境の問題で、私は調査ができませんでした。

私の問題への提言は、私の家と私のコミュニティに防潮堤を設けることです。これにより、海水とゴミが陸地に侵入する問題が解決できるでしょう。防潮堤が建設されれば、家の裏庭で農業もできます。道路の拡張・改善・学校までの歩道の設置も可能でしょう。

通信塔を、気象条件に左右されずインターネットが利用できる場所に設置してほしいです。これらの提案が全て実現すれば、私の健康・精神・食料・環境・コミュニティ・教育は影響を受けませんでしょう。



**危険で不安:** 28%の女の子が、気候変動の自身への影響について、「危険で不安を感じる」と回答した。これはトンガ(53%)や16~18歳の女の子(37%)で特に顕著である。

**ストレス:** 24%の女の子が気候変動によるストレスを感じており、ツバル(42%)・トンガ(29%)・キリバス(28%)・16~18歳の女の子(30%)・離島の女の子(75%)で顕著である。

**悲しみ:** 22%の女の子が「気候変動を悲しい」と感じ、特にトンガ(47%)・10~12歳の女の子(33%)・離島の女の子(38%)で顕著である。

**「気候変動が今後引き起こすであろう事態を私は憂慮します」**

先住民の女の子、17歳、地方、キリバス

**困惑:** 16%の女の子が気候変動に対し困惑しているという。これはトンガ(36%)とソロモン諸島(20%)で顕著であり、10~12歳の女の子でもやや高い(20%)。

他にも、苛立ち(全体で7%、ソロモン諸島では18%)・落ち込み・悲痛・燃え尽き・疲労等を気候変動に感じていると答えた女の子もいた。

**「洪水で寝る場所がなく、1か月以上眠れていません」**

先住民の女の子、17歳、地方、キリバス

**「夜中に落ち込み、ひどく疲れを感じるがあります」**

宗教的マイノリティの先住民の女の子、14歳、都市部、フィジー

**「干ばつでバケツを持って水を汲みに行くのにうんざりします」**

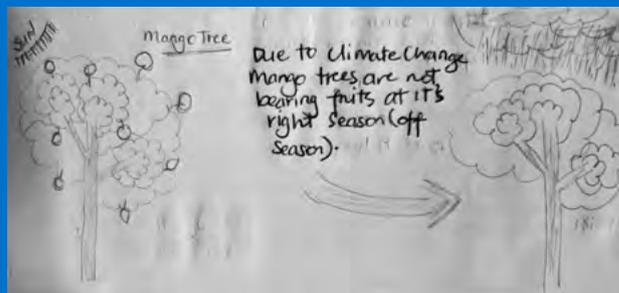
女の子、17歳、離島、ツバル

気候変動は、家庭のウェルビーイングにも影響する。5%の女の子が、家の喪失や村の移動で、家庭崩壊や一家離散を経験した。これはツバル(12%)・ソロモン諸島(8%)・離島の女の子(25%)で顕著である。気候変動により移住する家族もいる一方、異常気象により他の場所に住む家族を訪問できない女の子もいる。

## Seraの語り

Seraはフィジーの地方に住む17歳の先住民の女の子である。

気候変動により、マンゴーは本来の季節に実をつけなくなりました。



## Alanietaの語り

Alanietaはフィジーの地方に住む14歳の先住民の女の子である。

私の作品は海面上昇と土壌浸食を題材としていて、これらは私が経験した気候変動による変化です。私が幼い頃には、海には魚が沢山いました。私は子どもクラブの一員で、コミュニティのために私は、ゴミによる海洋汚染を止めなければならぬと思っています。

気候変動は、私の生活に様々な形で影響を及ぼします。子どもの頃は、美しく澄んだ静かな水の中でよく泳ぎました。でも今は、気候変動と海面上昇により、泳ぐことも、また昔ほど魚がいないので魚釣りも困難になっています。海面上昇で、道路脇の土手が流されて地滑りが起こるのではないかと心配しています。

私はコミュニティの啓発を行い、政府の環境法の施行に貢献したいと考えています。

## 安全と安心

安全と安心も、女の子の気候問題の一つだ。太平洋地域の暴力の発生率は高いが、調査参加者のうち、気候変動が関連した暴力を受けたと答えた女の子はわずかだった。

これには、身体的暴力(6%)、CEFMU(3%)、SGBV(2%)が含まれる。身体的暴力の割合はトンガ(17%)で著しく高い。CEFMUはトンガ(9%)と16~18歳の女の子(6%)で多くみられた。SGBVはソロモン諸島(8%)・離島の女の子(13%)、10~12歳の女の子(4%)で多くみられた。女性支援センター等の相談サービスを「利用できない」と答えた女の子はごく少数(1.2%)であった。

共創ワークショップでは、ユース女性が避難所での女性と女の子の安全性の問題を訴えた。彼女たちはこう述べた。

「避難所では、女性と女の子の安全ではなく、皆の安全が重視されます。女性と女の子は避難所で家族やコミュニティの世話をしなければいけません。私たちは避難所にほぼ1週間滞在し、生活を再建しなければなりません。教会等の他の組織が政府よりも迅速に支援してくれる場合もありますが、そうでなければ自力で再建しなければいけません。私たちは自身のトラウマや、特にレイプや虐待等の暴力に対処しないとはいけません。それは私たちの文化では恥を伴うことなので、私たちはそれを自身の家庭内で解決しようとするのです」

共創ワークショップ参加者

分析ワークショップの中で、太平洋地域の女の子とユース女性は、文化的規範による恥や辱めを避けるために、トラウマや家庭内でのレイプや虐待等の暴力に耐えることが多いと、共同調査員から説明がされた。文化的な恥やスティグマを恐れ、暴力の経験を明かさなかった女の子もいる可能性がある。従って、今回の結果は太平洋地域の女の子とユース女性が経験した暴力を十分に把握していない可能性がある。むしろ、今回の結果は太平洋地域の女の子とユース女性の暴力の過少報告と文化的規範の複雑な相互作用を反映している。

## 4.4 気候変動の女の子の教育・遊び・生計への影響

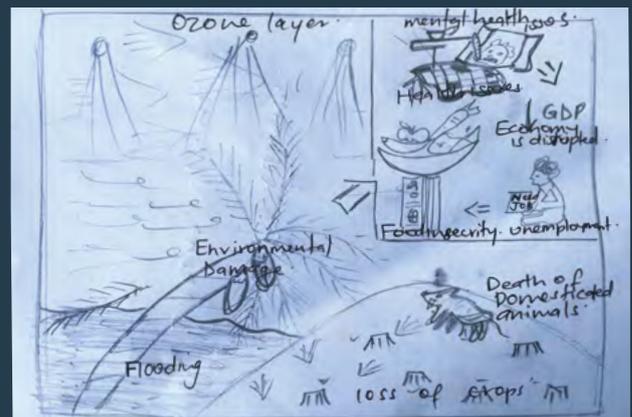
### 就学

太平洋地域では、都市部と地方・遠隔地との間に、教育インフラや教育機会の点で大きな格差がある。低所得家庭では、携帯電話・タブレット・インターネット回線を利用できない場合が多い。気候変動は、太平洋地域の女の子の通学にも影響を及ぼしている。地方や遠隔地の女の子は、道路・橋・交通手段・街灯・歩道等の未整備や、インターネットや電話回線等のサービスの欠如、更には本や学用品を買いに町まで行く能力の低下により、教育的機会の享受が不平等に損なわれている。

### Timaの語り

Timaはフィジーの都市部に住むインド系フィジー人の18歳の女の子である。

気候変動は、ハリケーン・サイクロン・洪水等の自然災害を引き起こします。ハリケーンは、農作物を壊滅させ、家畜を殺し、人びとの生計を脅かします。気候変動に対するレジリエンスの不足は、食料不安・貧困・失業・犯罪増加・女性への暴力・怒り・苛立ち・精神的健康上の問題を引き起こします。気候変動は環境だけでなく、コミュニティ住民の各々の社会・経済的側面にも影響を与えます。





通学中の子どもたち、西ガダルカナル、  
ソロモン諸島  
写真: PIA

50%の女の子が、災害で登校できず、休講や学期の変更があったことが判明した。これはツバル(74%)・トンガ(64%)・ソロモン諸島(62%)・離島の女の子(63%)で顕著である。33%の女の子が、「学校が損壊したことがある」と回答しており、これはツバル・トンガ・離島で顕著である。更に、13%の女の子は、教会・村の集会所・寺院・モスク・テント等、「様々な場所で授業を受けたことがある」と回答し、これはソロモン諸島で顕著である。

雨・洪水・熱波・干ばつのため欠席したと説明する女の子もいた。洪水等の悪天候は、女の子の通学に影響を及ぼし、体調不良で欠席させる可能性もある。

オンライン授業は不十分である。

**「雨季や、水不足で暑い干ばつの季節も授業に出席できません」**

民族的マイノリティの女の子、16歳、都市部、ソロモン諸島

**「豪雨で教室が浸水し、机やその他の学用品が全て濡れてしまい、授業を受けなかったことがありました」**

先住民の女の子、12歳、地方、キリバス

**「気候変動は学校運営を妨げ得り、子どもが家でオンライン学習するのは、教室で授業を受けるのとは全く違います」**

先住民の女の子、18歳、都市部、フィジー

更に、気候変動の影響により、女の子を就学させるのに十分な資金がない家庭もある。

**「気候変動は私の教育を脅かしています。私はほぼ学校にいけません。バス代がありません」**

女の子、10歳、地方、トンガ

共創ワークショップに出席したユース女性は、気候変動の脅威により教育の意義を見出せない太平洋地域の女の子もいると指摘した。

**「学校で、気候変動は事実だから学校に行く意味が無いという冗談が流れているので、学生として、怖いです。将来何が待ち受けているのでしょうか」**

共創ワークショップ参加者

女の子は、支援や資金の欠如等、これらの問題の克服に向けた戦略が欠如していると指摘した。「気候変動は教育や生計手段に影響していない」と答えた女の子はわずか6%であった。

「日常的な活動をする自由がなく、退屈です」

女の子、18歳、都市部、ソロモン諸島

### 遊びと余暇

気候変動は、太平洋地域の女の子が遊びやスポーツ、その他余暇活動に励む能力を損なわせる。調査全体で、26%の女の子が「気候変動が理由でスポーツができなくなった」と答えた。これはキリバス(41%)と13~15歳の女の子(33%)で顕著である。更に、23%の女の子が「気候変動の影響で遊べなくなった」と答えた。これはキリバス(39%)と10~15歳の女の子で顕著である。これにはいくつか理由があり、女の子は、災害によるスポーツ施設や校舎の破壊または浸水・暑さによる苦痛・飲料水の不足・体調不良が、余暇活動への参加を妨げていると説明した。

沿岸地域では、余暇として遊泳を楽しむ女の子もいるが、気候変動によりその機会は減少している。

また、女の子は家事労働が増加したと話した。19%の女の子が「家の手伝いで労働時間が長くなった」と答え、これはトンガ(32%)で顕著である。11%の女の子が、「食料・薪・水の収集や通学のために歩く距離が長くなった」と答え、ソロモン諸島(20%)で顕著である。これらの家事労働はジェンダー化されており、男の子よりも女の子に割り当てられることが多い。家事労働に費やす時間の増加が、女の子の教育的機会を奪う可能性が高く、結果として、女の子と女性の教育や雇用における不平等が拡大している。

「気候変動で、屋外は暑すぎて、子どもが通常行う屋外での活動ができないので、一日中家にいるようになりました」

障害を持つ女の子、14歳、都市部、ソロモン諸島

「気候変動により、洗濯等の家事をこなすのが困難になっています。水汲みのために長距離を歩く等、家から離れた場所に移動しなければならない場合もあります」

共創ワークショップ参加者

## 気候変動の各国の教育と生計への影響

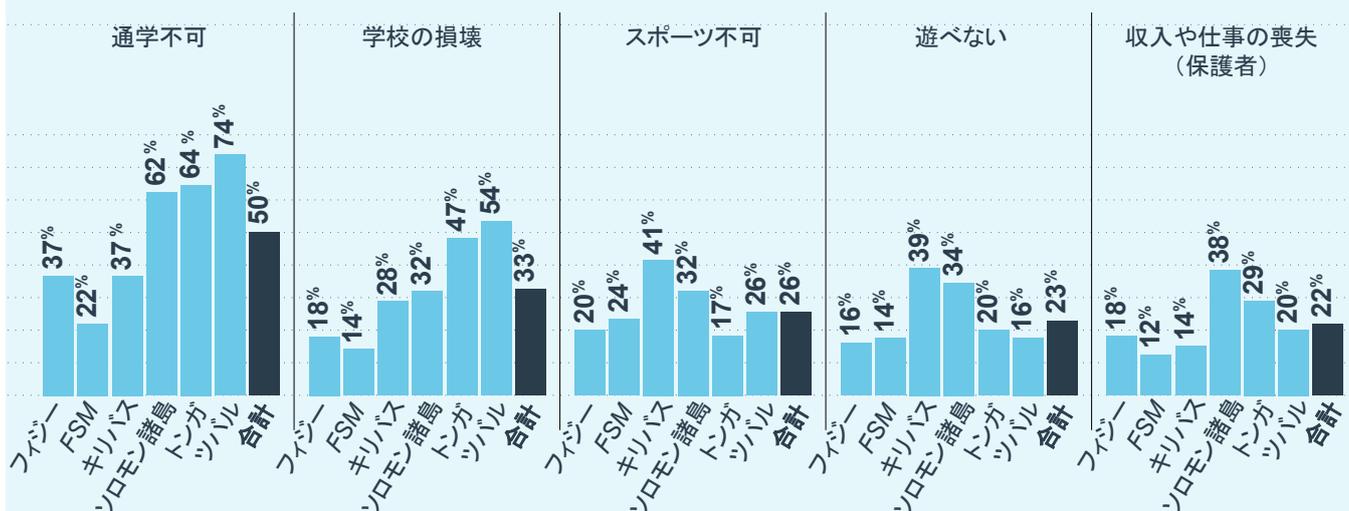


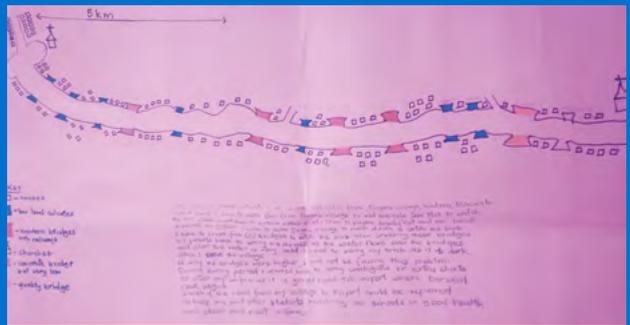
図9. 気候変動の女の子の教育と生計への影響(国別)

## Elenoaの語り

Elenoaはフィジーの地方に住む12歳の先住民の女の子である。

悪天候時は毎朝、5km歩きます。家から学校までの道は悪路です。スクールバスに間に合うように5km歩かなければいけません。これは下校時と同じです。暗渠や橋はとても低く、危険な状態なので、通学には危険が伴います。朝3時に家を出て、6時のバスに乗り、7時に学校に着きます。

提言: 12歳の女の子として、私が健康で安全であることは、提供される教育やサービスを楽しむのに不可欠です。道路沿いにソーラー街灯を設置し、頑丈な基礎の上に高い橋を架けて欲しいです。これらの提言が実現すれば、女の子としての私の生活は安全で安心なものになるでしょう。ソーラー街灯があれば暴力が減り、バスが毎日5kmも歩かなくても村まで来てくれるでしょう。通学時に服が濡れることもないでしょう。これが実現すれば、私のコミュニティでは犯罪が減り、私の健康状態も改善するでしょう。私の村の地理的条件から、私にとって最大の障壁はコミュニケーションですが、コミュニティリーダーはこれらの問題に積極的に取り組もうとしないのです。



### 写真に写る文章:

雨が降ると、私は6時にスクールバスに乗るために、村から5km歩かなければいけません。母は午前1時半に起きて、朝食と私たちの昼食を用意します。バスに乗るには5つの橋を渡らなければなりません。橋を渡る際には、水が橋の上を流れており、また水がとても冷たいので、両親が私を対岸まで運ばなければいけません。村を出る時は暗いので、明かりが必要です。橋がもっと高ければ、この問題は起こらないでしょう。晴れた日には、砂利道で、その先にアスファルトが敷かれているので、制服の上にカーディガンや予備のシャツを着なければいけません。私の村から空港までの道路が修復されれば、私や他の生徒が元気に、清潔できちんとした制服で学校に行けるのと思います。

「ユース女性は通常、料理・魚釣り・洗濯・家族の手伝いをします... 女の子は男の子よりも働きます。水汲み等、大変な仕事をする女の子もいます。男の仕事は防潮堤を築くことで、女の仕事は多岐にわたります」

共創ワークショップ参加者

### 家族の生計

気候変動は、太平洋の家族、特に農業・牧畜・漁業等の非正規部門で生計を立てる家族の生計に影響を及ぼしている。これは女の子に様々な影響を与えている。本調査では、22%の女の子が、「気候変動が原因で、保護者の収入や仕事が喪失したことがある」と回答し、ソロモン諸島(38%)やトンガ(29%)では顕著である。例えば、異常気象による作物の被害が挙げられる。

「私たちのコミュニティでは、塩水の混入・真水の欠如・肥沃な土壌の欠如により、収穫量の激減が起きています」

先住民の女の子、16歳、地方、キリバス

「サイクロンが来ると、私たちの農園は破壊され、植え直さなければなりません。これは、通常コミュニティが、特に女性と女の子が耐えなければいけない重労働です」

共創ワークショップ参加者

「私は農園に全力を注いでいますが、気温が上がれば植物は全滅してしまうでしょう」

障害を持つ女の子、16歳、都市部、キリバス

リソースの損失は生計にも影響する。11%の女の子が牛・豚・鶏・アヒル・ヤギ・馬等の家畜を失った経験があり、これはトンガ(23%)や離島の女の子(25%)で顕著である。9%が農地や漁場を失った経験があり、特にツバル(20%)や離島の女の子(38%)で顕著である。

「家畜は災害の影響を受け、災害の犠牲になると甚大な損失となります」

共創ワークショップ参加者

これらの生計への影響により、女の子は、費用の増大、あるいは働けなくなり、家族の収入が減ったと話す。

## Agelaの語り

Agelaはフィジーの地方に住む13歳の先住民の女の子である。彼女は地元の環境関連の子どもクラブに所属している。

私の作品は、私の日常生活への気候変動の影響を題材にしています。私は、皆で手を繋いで気候変動と戦おうと伝えたいのです。私は今年まで、気候変動の影響を実感したことはなかったです。今年は、多くの点で天候がいつもと違うと感じました。雨が多く、珍しく休校になる日もありました。毎朝、私は学校に行く準備をするためにとても早く起きますが、今年は寒くて起きるのが辛かったです。そして、鼓膜に影響が出て、耳が痛くなったり、咳が頻繁に出るようになりました。私はまだ13歳の女の子です。天候の影響で、授業に欠席することが多くなりました。学校に行くと、天候の影響を受けているのは私だけではなく、同級生も同じだということに気づきました。

気候変動は教育にも影響を及ぼしているということをお伝えたいです。各国の指導者のすべての方に、お願いします。私たちは未来なのです。未来のため、皆で協力して気候正義を強化していきましょう。

「必要なものや欲しいものを買うのに、大金が要る場合もあり、それを払える人もいれば払えない人もいます」

宗教的マイノリティの女の子、18歳、地方、トンガ

「気候変動の影響で、思うように稼げないこともあります」

人種的マイノリティの女の子、18歳、地方、トンガ

家族の収入の減少は、女の子の教育的機会や就学へ影響を与え得る。

## 4.5 気候変動のコミュニティと文化への影響

太平洋地域の女の子は、気候変動のコミュニティや文化への様々な影響を指摘しており、「気候変動がコミュニティや文化に影響を与えていない」と答えたのはわずか6%だった。共同調査員は気候変動の文化への影響の例として、太平洋のコミュニティが沿岸から沿岸以外の場所に移動したことを挙げた。彼女たちは、魚を捕まえたり海産物を採取するために、長距離を歩かなければならない女性や女の子もいると説明した。海に行くことをやめ、食事を変えるなどして新しい環境に適応する方法を見つけなければならぬコミュニティもある。多くの再定住はドナーからの資金で賄われるため、家族は新しい家電・電気・テレビ・携帯電話のある開発されたコミュニティに移る場合が多い。これは家族・文化活動に影響を及ぼし、家族と一緒に過ごす時間や社会・文化的な集まりが減る。

### コミュニティのインフラ

気候変動はコミュニティのインフラに影響を与え、その影響は、基本的な医療、教育、その他送電線、コミュニティ施設などの公共インフラが既に不足している地方や遠隔地では、特に深刻である。

「気候変動は電力や通信に影響を与え、入院や治療が必要な病人や妊婦にとって問題となります」

共創ワークショップ参加者

31%の女の子が、気候変動による教会への損害を認めており、これはトンガとツバル、および離島の女の子(75%)で顕著である。また、25%の女の子が、図書館やコミュニティセンター、避難所などのコミュニティ施設の損害を報告しており、これはツバルとトンガ、および離島の女の子(63%)で顕著である。コミュニティ施設は、伝統的な集会やコミュニティ教育活動等の活動に使用されており、これらの活動は施設が破壊されると実施できなくなる。26%の女の子が、結婚式や葬式等の行事に参加できていないと回答し、これはソロモン諸島とトンガで顕著である。気候変動の影響で、宗教活動に参加できないと話す女の子もいた(ソロモン諸島都市部で暮らす17歳の女の子)。

### 文化への影響

太平洋地域の女の子は、気候変動の自身の文化的な慣習や生活様式への影響を認識している。24%の女の子が、墓地や儀式的場等の文化的な場所が被害を受けていると考えており、ツバル・トンガ・ソロモン諸島、離島の女の子(63%)で割合が顕著に高く、同様に30%の女の子が、「気候変動が理由で、踊り・音楽・歌等のコミュニティ・文化活動ができなくなった」と認識している。これはソロモン・トンガ、16~18歳の女の子で顕著に高い。

女の子は、太平洋での気候変動の影響は、彼女たちの生活様式にも及んでいると話す。海面上昇が浸食を引き起こし、海岸線に影響を与えており、「前にように美しい海辺に行けなくなった」と語る女の子もいた(ソロモン諸島の都市部で暮らす13歳の民族的マイノリティの女の子)。他にも、

「気候変動は、女の子である私の教育や故郷の島の喪失など、私の未来を本当に脅かしています」

民族的マイノリティの先住民の女の子、13歳、都市部、ソロモン諸島

## Lusianaの語り

Lusianaはフィジーの地方に住む10歳の先住民の女の子である。

問題は、学校や街に行くのに橋が全くないことです。私は毎日、通学やサービスを受けるために川を渡らなければなりません。水位が上昇すると、母が私を抱えて川を渡り、学校に行かせなければなりません。絵で示された通り、地方の私と都市部の子どもは全く違います。サービスの享受や学習環境の安全性が違うのです。

1. 都市部の学校にある街灯
2. 歩道
3. 学校に設置された水洗トイレ
4. 高水準の学習環境
5. サービス利用のために渡る橋

私の通う地方の学校には、都市部の生徒が利用しているものが何もないのです。私の健康と教育は影響を受けています。私だけでなく、私の家族やコミュニティ全体にも影響が出ています。

提言: 私たちは村に、橋・街灯・学校内の歩道・図書館・調査や情報収集のためのネットワーク・学校に設置したトイレ・浄水された安全で清潔な飲料水等、多くのものを必要としています。政府・NGO・CSO・その他利害関係者に対し、私たちを助けるよう強く求めます。環境さえ変われば、私の生活や学習環境は安全で安心なものに変わります。最大の障壁は、助けや情報を求めてどこに声をかけたらよいかわからないことです。



## 「気候変動は私たちの生活に影響し、生活様式を変化させました」

人種的・民族的マイノリティの先住民の女の子、16歳、都市部、ツバル

共同調査員は、気候変動による気象災害の増加に伴い、コミュニティは適応し生き残るために新しい方策を講じなければならないため、太平洋地域の女の子にとって文化的な影響は特に大きいと説明した。海面上昇・洪水・地滑りは、環境の姿を一変させた。伝統的な有効な薬草やココナツツの木が激減した。ココナツツの木は、太平洋の人びとにとって経済的・自家消費の面で重要な作物であり、食料・油・繊維・木材の主要な供給源である。波が神聖な埋葬地に打ち寄せる等、先祖や愛する人の墓地が気候変動に脅かされているコミュニティにいる女の子もいる。コミュニティは、土地との伝統的なつながりや帰属意識から、土地を離れることに不安や恐怖を覚えている。

## Jasminの語り

Jasminはフィジーの地方に住むインド系フィジー人の17歳の女の子である。彼女は動画の中で、家族が経営するオクラ農場の荒廃した様子を映し出した。

気候変動で異常な暑さの頻度と程度が高まっています。私はフィジーの美しい島の地方の村にいます。子どもは大人より体温調節ができないため、気温の変化に脆弱です。これは私たちのオクラ農場でしたが、長期間の干ばつと乾燥の影響を受けてしまいました。

私は、地方コミュニティでの気候変動関連の問題への軽減策実施に対し、資金投入を強化するよう現政権に求めます。

## 気候変動の各国のコミュニティと文化への影響

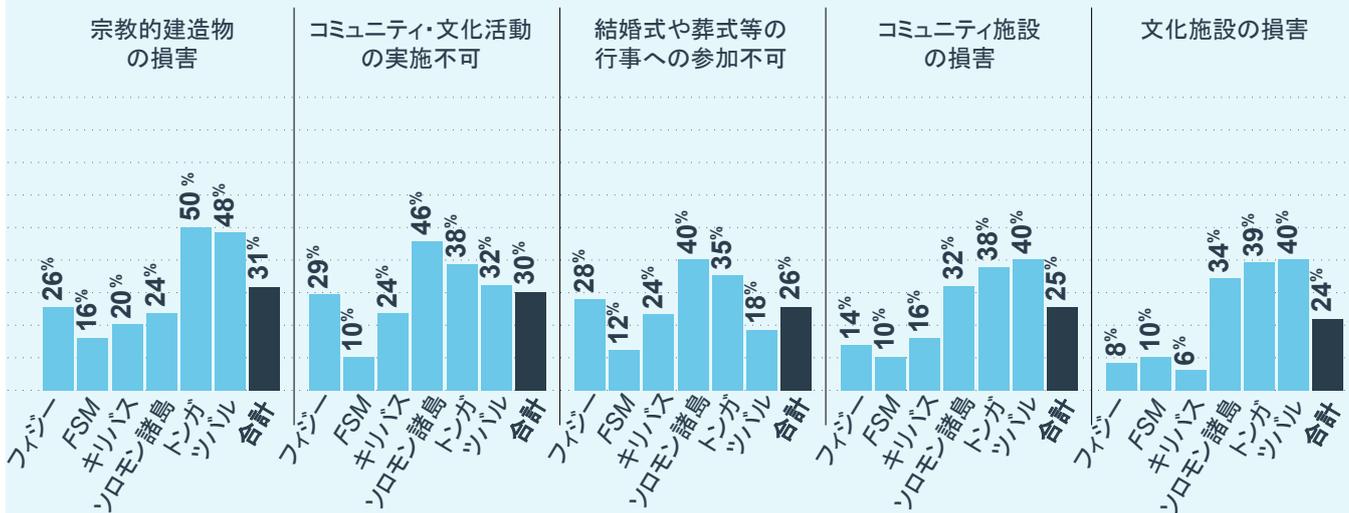


図10. 気候変動の女の子のコミュニティと文化への影響(国別、上位5つの影響)

海拔2メートルに位置するラッセル諸島、ソロモン諸島  
写真: PIA



サイクロン被害、フィジー  
写真: Robert McKechnie



# 5. 調査結果: 太平洋地域の女の子の気候正義に対する行動提案

本セクションでは、気候変動の阻止・女の子の気候変動への取り組み支援・災害に対するレジリエンス等、政府や国際社会が気候正義のためにとるべき行動について、女の子の意見を紹介する。

女の子の主張の要は、政府は気候政策において女の子とその実体験を中心に据えること、というものだ。

「政府は女の子と男の子の違いに注目することです」

先住民の女の子、13歳、地方、ツバル

76人の女の子が、国際社会に対し、太平洋諸国の気候変動対策を資金提供で支援するよう求めた。それには、気候変動の克服のための資金も含まれる。

「彼らは太平洋諸国の気候変動との戦いに資金援助できます」

先住民の女の子、18歳、都市部、フィジー

## 5.1 気候変動の阻止

本調査では、気候変動阻止のために政府がとるべき行動を女の子に3つ選ぶよう求めた。その結果は、表2が示すように、森林/海洋/河川/土地/動物の保護・汚染源となる産業に対する規制強化・温室効果ガス排出量の削減が最も多く選ばれた。

### Miriamaの語り

Miriamaはフィジーの地方に住む14歳の女の子である。

伐採や森林の焼き払いは地滑りを引き起こす原因となります。私は、伐採や森林の焼き払いをやめるのが解決策だと考えます。私は、一度伐採すれば、元には戻らないことを伝えたいです。

表2. 気候変動対策として女の子が優先する行動

項目	最優先の3事項として選択した参加者の割合
森林/海洋/河川/土地/動物の保護	63.0
汚染源となる産業に対する規制強化	59.6
温室効果ガス排出量の削減	44.2
太陽光や風力発電の利用	43.3
海外企業による森林やマングローブの破壊の阻止	41.7
外部者による採掘・漁業・伐採の禁止	30.4
わからない	1.9

### 環境保護

女の子は、太平洋諸国政府が環境保護のためにすべきことを数多く提案した。森林伐採を止めるための厳格な規則制定・浸食防止のための樹木やマングローブの植林・水使用量の削減を求めた。また、太平洋諸国政府に対し、海中への堆積を防ぎ、砂浜の砂の搬出を禁止し、防潮堤を設置して「海水が内陸に入り込み、家屋の浸水被害を防ぐ」よう訴えた(先住民の女の子、15歳、地方、キリバス)。

政府は環境保護のために政策を改正または徹底すべきだと主張した女の子もいた。

**「政府は、気候変動に対抗するのに有効な環境対策を怠った者に対し、法令と罰金を厳しく適用すべきです」**

宗教的マイノリティの女の子、13歳、地方、キリバス

女の子は、世界の国々が環境を意識し、環境を美しく保ち、自然を守ることを望んでいる。

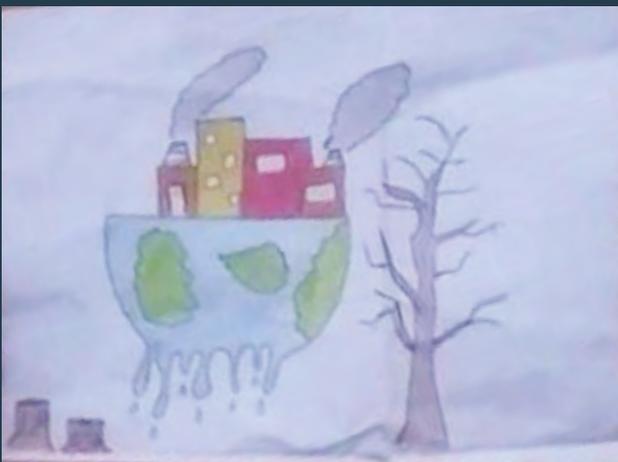
**「汚染から私たちの海を守るのを助けてください」**

民族的マイノリティの先住民の女の子、18歳、都市部、ツバル

## Loataの語り

Loataはフィジーの都市部に住む15歳の女の子である。

森林伐採と工場からの煙が、母なる大地を苦しめています。この絵は大気汚染と森林伐採を描写しています。産業は大気汚染を引き起こす煙を大量に発生させ、人類は多くの木を伐採しています。私たちの母なる大地は大気汚染と森林伐採に脅かされています。森林伐採の阻止と、産業から排出される煙の削減が解決策です。



## エネルギーと汚染

女の子は、エネルギーと汚染に対する政府の行動を要求しており、化石燃料の燃焼の停止を重要行動として挙げた。

**「産業汚染を最小限にすること」**

人種的マイノリティの女の子、16歳、都市部、フィジー

**「化石燃料への依存をやめましょう」**

宗教的マイノリティの女の子、18歳、地方、トンガ

**「大気汚染の原因を排除しなければなりません」**

女の子、18歳、地方、トンガ

女の子は、世界各国に対し、工業化や化石燃料・ガスの使用による汚染を削減するよう訴えた。

**「自国の工場からの汚染の削減に同意して、太平洋地域の女の子を助けてください」**

女の子、17歳、都市部、ツバル

**「太平洋全域で太平洋地域の女の子に様々な病気を引き起こす環境汚染に対する法規制を制定すること」**

宗教的マイノリティの女の子、18歳、地方、トンガ

女の子は、世界各国が気候変動の原因となる活動を止めるよう求めている。

**「オゾン層を破壊し、気候変動を引き起こす行為をやめること」**

女の子、16歳、地方、ツバル

また、女の子は、政府が太平洋の人びとに二酸化炭素排出削減を促すことも望んでおり、その実現には、自動車/バイク/船の利用減(車の代わりに歩く、カヌーの利用)・太陽光発電等の再生可能エネルギーの利用・トラック/自動車/バイクの輸入減・ゴミの焼却禁止等が求められるとした。

彼女たちは、家庭でのエネルギー使用量の削減とエネルギーの効率的利用により、コミュニティの排出削減を政府が支援するよう求め、住宅の設計も改善する必要があると主張した。

「日中は常に暑いので、外の熱気を遮断する建材に変えるのが一番です」

先住民の女の子、14歳、地方、キリバス

世界各国に対し、太平洋諸国が排出量を削減できるために再生可能技術の提供を求めた女の子もいた。

「世界各国が私たちを支援する方法として、太陽光発電パネルを提供することで化石燃料燃焼による発電の停止と、貯水タンクの増設が考えられます」

宗教的マイノリティの女の子、14歳、地方、ツバル

多くの女の子が廃棄物管理の改善を求めており、消費削減(購入を控え、ビニール袋の不使用)・リサイクル・修理・廃棄物の削減等の廃棄物対策を提案した。彼女たちは、街中・海・川・あらゆる場所でのポイ捨てを撲滅したいと考える。

「海にゴミ、特にプラスチックを捨てないで。海の生物がそれらで窒息するかも知れないから」

女の子、18歳、地方、ソロモン諸島

女の子は公共の場にゴミ箱を増やし、コミュニティの清掃活動を活発化することを望み、また、他の国々に対して太平洋の搾取を止めるよう望んでいる子もいた。

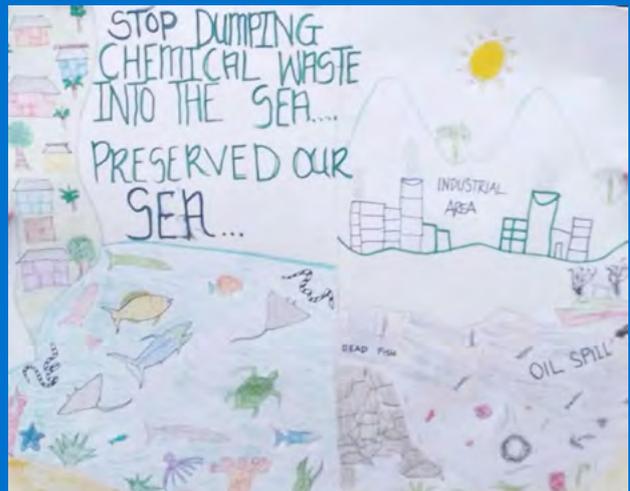
「キリバスへのプラスチックの輸送を止めて。ガスの排出量を減らして。私たちの海での漁を止めて。陸と海の両方での石油流出を止めて。リン酸塩の採掘を止めて」

女の子、13歳、地方、キリバス

## Katarinaの語り

Katarinaはフィジーの地方に住む13歳の先住民の女の子である。

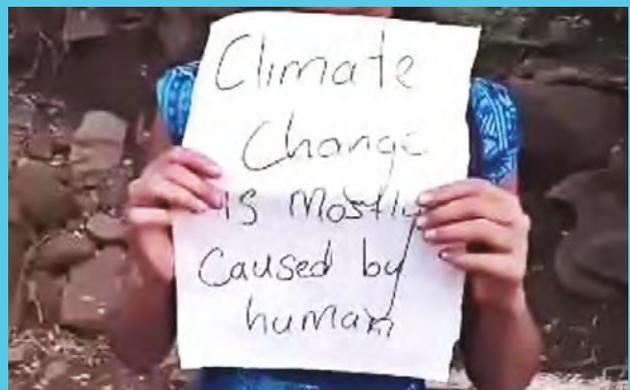
私の絵は、気候変動と水質汚染によって私たちの海に起きた変化を表現しています。私が幼い頃は、海に沢山の魚がいて、ゴミも少なく、澄んだ海水の中で泳いでいました。私は、気候変動に関する子どもの声を伝える活動を行う子どもクラブの一員です。



## Premilaの語り

Premilaはインド系フィジー人の10歳の女の子である。

気候変動は主に人間が引き起こしています。森林伐採は気候変動の影響を悪化させます。伐採をすればするほど、土壌浸食が進みます。気候変動の解決策は、植林です。なので、森林伐採はやめてください。



## 気候変動教育

女の子は、女の子への気候教育の機会を増やすよう求めており、彼女たちは気候変動を理解し、その地球への影響を知りたいと望んでいる。

「幼い子どもに、気候変動とそれが地球に及ぼす影響を教えるべきです」

女の子、16歳、地方、ソロモン諸島

また、個人の行動変容に関する教育も求めた。

「気候変動を助長する可能性の活動の削減が必要です」

宗教的マイノリティの女の子、地方、キリバス

女の子は、啓発グループやプログラム・気候変動の学校のカリキュラムへの導入強化・ワークショップ等、女の子の教育に効果的な戦略を挙げた。

「気候変動の影響に関するコミュニティ内の啓発グループ」

女の子、17歳、都市部、ソロモン諸島

## Emeleの語り

Emeleはフィジーの地方に住む12歳の先住民の女の子である。

海面上昇: 昔は満潮時でも水位が上がらなかったのに、今は防潮堤を越えてきてしまい、家の前まで浸水してしまいます。

予防策: 海岸線後退の拡大・防潮堤の嵩上げ・転居。



「女子高校生向けの啓発プログラムの強化」

先住民の女の子、15歳、都市部、ソロモン諸島

「全学校に気候変動に関する情報をより提供すること」

民族的マイノリティの女の子、15歳、都市部、ソロモン諸島

「学校が気候変動の私たちへの影響について教えること」

先住民の女の子、15歳、地方、ツバル

「気候変動に関するワークショップに、皆が参加するように促すべきです」

障害を持つ女の子、16歳、都市部、キリバス

「気候変動対策の詳細に関するワークショップを開催すること」

宗教的マイノリティの女の子、15歳、都市部、ツバル

女の子は、世界各国が教育やワークショップの機会を提供することで彼女たちを支援できると主張する。また、彼女たちは、太平洋や世界各地での気候変動に対する認識を高めるよう、世界各国に求めた。

「世界各国は、気候変動がツバルなどの太平洋諸国にどんな影響を与え得るかについて認識を広め、太平洋諸島を救うための方法の議論を開始することができます」

先住民の女の子、16歳、都市部、フィジー

## Maricaの語り

Maricaはフィジーの地方に住む18歳の先住民の女の子である。

気候変動は世界が直面する自然現象です。私の絵は、海面上昇が私の村、特に私の生計にどう影響しているかを描いたものです。海面上昇により道路状態が悪化しました。塩水が土壌に侵入したことで、母が経営する花畑(の塩分濃度)に影響し、花の生育が悪くなりました。

この問題に対抗する主な方法としては、森林伐採・ゴミのポイ捨て/焼却等の人間活動の最小化、そして何よりも再生可能エネルギーの利用が挙げられます。



知識の獲得を目的に、海外での教育や仕事の機会を求める女の子もいた。

「気候変動に関して質の高い教育を提供する海外の大学に女の子を留学させること」

女の子、18歳、都市部、ソロモン諸島

多くの女の子が、世界各国に対し、気候変動への啓発と気候正義のための女の子主導の行動を促す教育ワークショップへの資金提供を求めた。

「気候変動について理解を深め、自身の島を再建するための資金を太平洋地域の女の子に提供すること」

先住民の女の子、15歳、都市部、ソロモン諸島

## 5.2 気候変動に立ち向かい、気候変動に対するレジリエンスを構築するよう女の子を支援

本調査では、女の子が気候変動に立ち向かい、気候変動に対するレジリエンスを築くのを支援するため、政府がとるべき優先的行動の3つを挙げるよう求めた。その結果、表3が示すように、女の子に気候変動への適応方法を教えること・気候政策や行動の策定に女の子の声を反映させること・女の子に気候変動について教えること・女の子の教育と就業機会の改善が、最も多く挙げられた。

表3. 気候変動への適応を促すために女の子が優先する行動

項目	最優先の3事項として選択した参加者の割合
女の子に気候変動への適応方法を教えること	66.1
気候政策や行動の策定に女の子の声を反映させること	57.4
女の子に気候変動について教えること	51.4
女の子の教育と就業機会の改善	46.7
リサイクルと廃棄物管理の改善とプラスチック汚染の管理	41.7
企業や政府は、村で建設または開発する前に、伝統的土地所有者と先住民コミュニティから正式な同意を得ることを求められる	24.1
わからない	1.3

## Unaisiの語り

Unaisiはフィジーの地方に住む10歳の女の子である。

私の絵は、私たちが日々直面する気候変動の影響についてです。海が汚染され、カメは必死に呼吸し、本土に避難しようとしていて、海に捨てられたゴミを食べています。私たちはいつも海から食料を調達しているので、ゴミの海への投棄は私と家族にとって本当に深刻な問題です。私や家族が魚を捕ることはとても危険です。



### 気候変動への適応に関する教育

女の子は、政府が、気候変動の太平洋地域や女の子への影響に関する教育に注力するのを望んでいる。

「政府は、気候変動がコミュニティに影響を及ぼし始めた際に備える方法を女の子に教えるべきです」

先住民の女の子、18歳、地方、FSM

女の子は、園芸や水泳等の気候変動への適応スキルの習得を望んでおり、政府に対し「気候変動活動に女の子を参加させる」(共創ワークショップ)ことや、「起業を通じて女の子を力づける」こと(女の子、15歳、離島、ツバル)を求めている。気候変動による移住に関する教育を政府に求める女の子もいた。

## Vitilaの語り

Vitilaはフィジーの地方に住む16歳の先住民の女の子である。彼女は動画の中で、干ばつで枯渇しつつある川の水が日々の生活に果たす役割の重要性を訴えた。

長期休暇中には、この(干上がった)川で1日を過ごし、魚釣りや洗濯をして、泳ぐのが一番の楽しみ

「海外生活に必要な書類一式に記入する方法」

民族的マイノリティの女の子、18歳、地方、キリバス

女の子は、世界各国に対し、「コミュニティが気候変動に立ち向かう方法に関する啓発ワークショップ」の実施資金の拠出を求めた(宗教的マイノリティの女の子、13歳、離島、ツバル)。また、別の女の子は:

「気候変動をよく理解していない子もいます。だから、女の子向けのプロジェクトやワークショップを多く提供し、彼女たちが主導権を握り、有効な方法を理解できるよう、世界各国が私たちの島を支援する事が望ましいと思います」

宗教的マイノリティの女の子、13歳、都市部、FSM

### 基本的ニーズ

女の子は、政府が基本的ニーズの提供を通じて生活水準の改善させることを望んでおり、これには清潔な水源の提供・維持も含まれる。

「私のコミュニティに飲料水用の貯蔵タンクを設置してほしい」

宗教的マイノリティの女の子、13歳、地方、キリバス

でした。今は干上がり、飲料水は井戸水に頼るしかありません。でも、ほとんど料理にしか使いません。家から200mほど離れた場所に、私たちのコミュニティのショッピングセンターがあります。水道水を飲料水として使います。

### 「政府は各家庭に貯水タンクを支給すること」

先住民の女の子、13歳、都市部、ツバル

女の子は政府に、家族に適切な避難所を保証するよう求めた。

### 「海岸沿いに住居を建設するのをやめること」

人種的マイノリティの先住民の女の子、11歳、都市部、フィジー

彼女たちは、家庭菜園の支援と野菜の地産地消の推進を政府に求めた。

太平洋地域の女の子に保護と安全な環境を提供するよう、世界各国に求める女の子もいた。

### 「気候変動下の女の子の安全を保証すること」

宗教的マイノリティの女の子、17歳、地方、キリバス

### 「公平性を促進し、基本的な資源へのアクセスを保証し、女の子が健康的で清潔な環境で生活・就労できるようにすること」

宗教的マイノリティの女の子、14歳、地方、キリバス

#### 生計

女の子は、設備の提供等、太平洋諸国での持続可能な生活を支援するよう世界各国に求めた。

### 「農家が作物を蒔いたり家畜を育てるのに必要な機材を買うための資金を寄付すること。家族の食料を買うためにも」

宗教的マイノリティの先住民の女の子、都市部、フィジー

彼女たちは、世界各国に仕事や海外での就学・就労の機会と同様に、太平洋諸国の農業改善に支援を求めた。

## Salomeの語り

Salomeはフィジーの地方に住む12歳の女の子である。彼女は言う。

私は川の汚染について話します。ゴミを捨てれば捨てるほど洪水が増えます。蚊が大量発生します。私は「川にゴミを捨てないで」と言いたいです。



## 5.3 緊急対応と災害リスクへのレジリエンス

本調査では、女の子に、緊急対応と災害リスク軽減のために政府が取るべき最優先の3つの行動を挙げるよう求めた。その結果、表4が示すように、「災害への備え方を子どもに教えること」・「災害時の女の子の安全を確保すること」・「災害関連情報共有の改善(テキストメッセージ・翻訳・ラジオ等)」・「災害時/災害後の女の子へのケアパックの提供」が、最も多く挙げられた。

表4. 災害リスクへのレジリエンス強化のために女の子が優先する行動

項目	最優先の3事項として選択した参加者の割合
災害への備え方を子どもに教えること	71.5
災害時の女の子の安全を確保すること	47.6
災害関連情報共有の改善(テキストメッセージ・翻訳・ラジオ等)	46.4
災害時/災害後の女の子へのケアセットの提供	42.0
人道的救済/支援の提供	41.4
コミュニティへの災害警告システムの構築	41.4
わからない	0.9

#### 女の子に配慮した災害へのレジリエンス

女の子は、災害時に女の子に目を向けるよう政府に訴えた。

「災害時の女の子をケアすること」

女の子、13歳、都市部、ソロモン諸島

「私たちのコミュニティの女の子は、通常、コミュニティの貯水タンクから水を汲むので、干ばつの時に重いバケツで水を運ぶことはできません」

先住民の女の子、13歳、地方、ツバル

これには、災害時の女の子の移動手段の提供も含まれる。

女の子は政府に災害への備えと早期警報システムの整備を求める。

「災害に対し、事前に備えること。津波警報が発令されたら、津波が来る前に高台に逃げなければなりません」

先住民の女の子、10歳、都市部、フィジー

「コミュニティが住民に何かが起こることを知らせる合図を提供すること」

宗教的マイノリティの女の子、13歳、離島、ツバル

「災害に対してコミュニティが自ら備えられるよう支援すること」

障害を持つ女の子、16歳、地方、トンガ

また、女の子は、太平洋諸国が災害に備え、自国を守るのを世界各国が支援できると主張した。安全で利用しやすい避難施設の建設を求める声もあった。

「災害時用の優れた施設を提供すべきです」

女の子、16歳、都市部、ソロモン諸島

「応急処置用品をください。太平洋地域の女の子が気候変動に備えるのに役立つでしょう」

宗教的マイノリティの女の子、15歳、地方、トンガ

「私たちが自身を守れる女の子となる機会をください」

障害を持つ女の子、12歳、地方、トンガ



また、女の子は世界各国に災害時の支援を求めた。

「ツバルは頻繁にサイクロンや干ばつに見舞われるので、サイクロンの際に支援をください」

宗教的マイノリティの女の子、16歳、都市部、ツバル

災害時・災害後の食料/清潔な水/衣類の提供等が支援に含まれる。女の子は月経管理セット等の衛生用品を求めた。

「災害前後で生理用品を寄付してほしい」

女の子、18歳、都市部、フィジー

また、世界各国に対し、医薬品・応急処置・医療情報の提供等の医療支援を求めた。

「気候変動の影響を受けた際に医療支援を行うこと」

先住民の女の子、10歳、都市部、フィジー

### 防災教育

女の子は、女の子・子ども・ユース・家族に対する、災害への備え・リスク軽減・災害対応に関する質の高い教育の実施を政府に求めている。これには、学校での自然災害に対する避難訓練も含まれる。他に提案された防災教育の手段として、災害への備えを家族に教えることや、Facebook等のソーシャルメディアの活用が挙げられた。

女の子は、世界各国も防災教育を支援できると認識している。

「女の子に気候変動関連活動を提供し、今後起こり得るあらゆる事態、特に洪水に備えさせるべきです」

女の子、18歳、地方、ソロモン諸島

女の子、フィジー  
写真: Sandra Stephens



# 6. 調査結果: 太平洋地域の女の子の気候正義のための活動

本セクションでは、太平洋地域の女の子が気候正義の運動や提唱活動に参加し、政府に気候変動対策を働きかけた経験やそのための提案を紹介する。

## 6.1 太平洋地域の女の子の気候正義活動への参加

本調査では、34%の女の子が「気候正義の活動に参加している」と回答した。これは環礁国のツバル(74%)・キリバス(51%)・FSM(29%)で顕著であり、また離島の女の子(75%)や地方の女の子(39%)の方が比較的高かった。小国の女の子は、気候変動のコミュニティへの影響を直に経験しており、活動に参加する機会が多い可能性がある。

気候正義の活動に参加する女の子は主に、学校のクラブや活動・コミュニティ教育・環境プロジェクト・キャンペーン活動等に参加している。ここから、気候正義への女の子の参加に学校が重要な役割を果たしていることがう伺える。16~18歳の女の子は、気候正義の活動への参加率が高い。彼女たちは、Pacific Climate Warriors・Pacific Islands Climate Action Network・Fridays for Future (ツバル) 等の様々な団体や、子どもクラブや政府環境部門といった国別の組織に参加している。

### Melaniaの語り

Melaniaはフィジーの地方に住む15歳の先住民の女の子である。彼女の絵は、気候変動の彼女の故郷とその周辺への影響を伝えている。Melaniaは、気候変動に関する彼らの声を聞いてもらうために活動するユースクラブに参加している。



調査した太平洋地域の女の子の多くは、気候正義の活動への参加に強い関心を示しており、30%の女の子は気候正義の活動に極めて強い関心を示し、28%は強い関心を示し、20%は中程度の関心を示した。全く関心がないと答えたのは7%だけだった。キリバス・ツバル・フィジーでは、気候正義の活動への関心が顕著だった。72%の女の子は、「地域の気候正義に取り組むグループとつながりたい」と答えた。

## 6.2 政府に気候変動対策を働きかけるための女の子の活動の案

本調査では、太平洋地域の女の子が政府に気候変動対策を促すために何ができるかについて、自由回答形式で尋ねた。回答は、集团的行動・気候変動に関する学習・個人の行動変容という3つのポイントに集約された。

### 集団行動

女の子は気候正義のために団結して行動を起こすことを望んでいる。253人の女の子が、団結すれば政府の気候危機に対する行動への働きかけが成功する可能性がある」と主張した。

「彼女たち(女の子)は協力し、女の子だけの組織を作り、気候変動の正義のために戦うことができます。そうすれば、政府は彼女たちの窮状に気づき、対策を取るでしょう」

宗教的マイノリティの女の子、18歳、都市部、ツバル

103人の女の子の意見の要点は、声を一つにし、気候正義を主張することだ。これには、政府が気候変動対策を講じるよう政策変更の要請も含まれる。「政府に簡単に接触できるよう、政府の一員になる」ことの有用性を認める女の子もいた(女の子、18歳、都市部、フィジー)。女の子主導の集団行動の重要な主張は、環境問題に焦点を当て、政府に気候変動対策を講じさせることである。

「化石燃料の燃焼や森林破壊・伐採を止めること」

先住民の女の子、18歳、地方、FSM

集団行動として、平和的な抗議行動に参加する女の子もおり、また、仲間と協力したり、メディアを活用したりして、自身の状況を政府に訴える女の子もいる。

「私たちは太平洋地域の女の子として、団結して紙や看板に署名を募り、一緒に公共の空間を堂々と行進できます」

宗教的マイノリティの先住民の女の子、14歳、都市部、フィジー

「ストライキを行い、キリバス政府に、私たち(女の子)が本当に将来を心配していることを分からせ、政府が気候変動に対して最善を尽くすようにさせなければなりません」

先住民の女の子、15歳、地方、キリバス

「私は、気候変動について訴える看板を掲げ、政府に対策を講じるよう促すために、路上に立つでしょう」

先住民の女の子、13歳、地方、FSM

多くの女の子は、自ら声を上げ・意見を伝え・書面で伝え・ユース議会に出席し・コミュニティのリーダーと対話するなどして、自身の声を聞かせるべきだと提案する。

「コミュニティリーダーに起きていることを伝え、彼らが政府に伝えられるようにするの」

女の子、16歳、都市部、ソロモン諸島

「政府に手紙を送り、気候変動について私たちの考えを伝えるの」

障害を持つ民族的マイノリティの女の子、10歳、地方、トンガ

太平洋地域の女の子が政府に気候変動対策を求める上で、ソーシャルメディアが有効なプラットフォームであると示唆する女の子もいた。

「多くの素晴らしいことができます。私たちがしていることを理解し、目標を設定することや、気候変動で被害を受けてる状況をソーシャルメディアで発信・投稿し、政府指導者に支援を訴えることなどです」

宗教的マイノリティの女の子、13歳、都市部、FSM

メディアを通じて、気候変動が太平洋にどう影響しているかを世界に示すことが重要だと語る女の子もいた。

「私たち(女の子)は、海岸浸食等の気候変動の影響を受ける地域の、伝統舞踊や自身の背景を伝える動画を作成し、ソーシャルメディアに投稿し、世界各国にその影響を認識してもらう必要があります」

先住民の女の子、11歳、地方、キリバス

集団行動の別の領域は、女の子の環境プロジェクトへの参加である。代表的な例は、女の子による植樹・マングローブの植林、ゴミ処理のためのコミュニティ清掃への参加などだ。

「マングローブの植林で海岸侵食を防ぎます」

宗教的マイノリティの女の子、16歳、地方、キリバス

## Talicaの語り

Talicaはフィジーの地方に住む16歳の先住民の女の子である。

私が住む場所での気候変動の影響は海面上昇です。政府に、私が住む場所に対してより強く働きかけてくれるのを望んでいます。

多くの女の子が、これらの活動にボランティアとして参加を希望しており、中には、コミュニティの災害対策に携わることも検討できるとした女の子もいた。

経済的支援を求めることで、政府に気候変動対策を講じるよう促せられると示唆する女の子もいた。

「支援や助成金を獲得するため、気候変動によりコミュニティが経験した問題を政府に説明します」

先住民の女の子、14歳、地方、キリバス

### 気候変動に関する学び

太平洋地域の女の子が気候変動や防災について理解を深められれば、政府が気候変動対策を講じるよう一層影響を及ぼすことができると、彼女たちは示唆する。特に、女子教育が啓発を促すことにつながり、政府の気候変動対策実施に役立つと、彼女たちは示唆する。

「学校やコミュニティでの気候変動に関する啓発プログラム実施を強化すべきです」

女の子、15歳、都市部、ソロモン諸島

### 個人の行動変容

太平洋地域の女の子が環境に対する行動を改めるべきだと考える女の子もいた。

「無機物・有機物・リサイクルに分別し、燃やさずに処理し続けること」

民族的マイノリティの女の子、15歳、地方、キリバス

これには、意思決定者に働きかけ、コミュニティに変化を起すために、女の子が一生懸命に/長時間働かなければならないかもしれない。

「専門家として仕事をする。立ち上がり、導くこと。声を上げること」

障害を持つ宗教的マイノリティの女の子、17歳、FSM

「重要な職務に携わるのです」

先住民の女の子、16歳、地方、FSM

## 6.3 太平洋地域の女の子の気候正義の活動への参加を実現させるもの

本調査では、女の子に気候正義の活動に参加を促すものは何か、という自由回答形式の質問を問いかけた。主な回答は、教育と啓発・集団行動への参加機会・支援・個人の動機付けに関することだった。

### 教育と啓発

144人の女の子が、「気候変動に関する教育・啓発と活動への参加が、気候正義の活動への参加促進につながる」と述べた。

「個人的には、この問題に対する理解を深めるために、気候正義活動に関する明確な説明と認識が不足しています」

先住民の女の子、16歳、地方、キリバス

「女の子への啓発を強化すること」

民族的マイノリティの女の子、18歳、地方、ソロモン諸島

多くの女の子が、学校が気候変動関連教育を提供すべきだと感じている。

「もし学校で気候変動関連活動が増えたら、より積極的に参加できるでしょう」

障害を持つ女の子、13歳、都市部、ソロモン諸島

「参加希望者は皆参加できるべきですが、まず、参加方法を理解するよう、研修を行ってください」

民族的・宗教的マイノリティの先住民の女の子、17歳、都市部、トンガ

コミュニティでのワークショップ・リソース・メディアが教育や啓発に役立つと考える女の子もいた。

「気候変動対策活動に関する有益な情報を更新し、ソーシャルメディアを賢く活用すること」

女の子、17歳、地方、トンガ

「女の子は、各々のコミュニティでの気候変動の影響に関して学べるアプリを入手すべきです」

障害を持つ女の子、16歳、都市部、キリバス

### 集団行動に参加する機会

103人の女の子が、「集団行動に参加する機会が必要だ」と回答した。大半の女の子は、活動団体やコミュニティへの所属が気候正義の活動への参加につながるかと主張する。

「私のコミュニティへの気候変動の影響が悪化した場合、私は国内の気候正義団体に加入し、コミュニティへの援助と支援を求めることを決断するでしょう。それが、この年齢で私を気候正義アクティビストにしましょう」

先住民の女の子、18歳、地方、キリバス

コミュニティ内での女の子の集団の結成が、行動を起こすのを促すという意見も聞かれた。

「女の子の集団を結成し、様々な活動に参加できるよう政府に支援を求めます」

宗教的マイノリティの女の子、14歳、地方、FSM

「男の子と女の子を別々にすること。男の子と女の子は、異なる視点を持っているからです」

民族的・人種的マイノリティの女の子、15歳、地方、FSM

「自身の村で女の子の集団/委員会を結成し、女の子の権利獲得のために戦い続けること」

人種的マイノリティの女の子、17歳、地方、トンガ

学校が女の子が参加するように活動を企画すべきだという意見もあった。

「学校がこの様な活動を増やし、資金援助を受ければ、私たちがこの様な活動に参加できるでしょう」

民族的・宗教的マイノリティの先住民の女の子、16歳、都市部、ツバル

気候正義の活動に参加するには、気候正義の活動組織への加入が有効だと考える女の子もいた。

「私は、キリバスの女の子に気候変動への意識を高めるよう働きかけ、キリバスの女の子だけから成る団体を創設し、あらゆる気候変動対策や気候正義に関わる活動を自主的に行えるようにします」

先住民の女の子、17歳、地方、キリバス

「気候正義の活動を行う個人や団体とつながること。誰かが講演を行い、私たちのコミュニティでの気候正義の活動への啓発を行うことで、私たちの世代、特に女の子が気候変動への適応や気候に関して理解を深められるようにすること」

先住民の女の子、15歳、地方、キリバス

### 支援

女の子は、気候変動対策活動への参加には、家族・コミュニティ・政府の支援が必要であると認識している。

「もし家族や友人がもっと協力的で、私を自由にさせてくれるなら」

先住民の女の子、18歳、地方、FSM

女の子は、コミュニティからの支援は、気候正義の活動への参加を後押しすると説明した。家族や友人が参加すれば、自身も気候正義の活動に参加すると話す女の子もいた。また、長老やコミュニティのリーダーの承認は、気候正義の活動に参加する上で重要だと話す女の子もいた。

「私は、気候正義の活動で長老がすべきだと決めたものには何でも参加します」

先住民の女の子、16歳、地方、キリバス

「村の権力者層に女の子の主張を伝えよう」

宗教的マイノリティの女の子、18歳、地方、トンガ

更に彼女たちは、コミュニティのリーダーや長老が、気候正義の活動に女の子も参加させるべきだと感じていた。

「コミュニティリーダーは、私たち女の子の気候正義の活動プログラム関与を継続させなければなりません」

民族的マイノリティの女の子、16歳、都市部、ソロモン諸島

女の子たち、フィジー  
写真: Nem Malosi



また、コミュニティの関与は、気候正義の活動の一端を担うのに役立つという意見もあった。

「コミュニティの関与は、理解の深化と参加に役立つでしょう」

女の子、18歳、都市部、ソロモン諸島

彼女たちは、気候正義の活動への参加には、当局からの支援が重要だと話した。

「女の子の声を支援します」

宗教的・人種的マイノリティの女の子、17歳、地方、トンガ

「政府の支援が必要な際には、女の子の声を尊重すること」

人種的マイノリティの女の子、17歳、地方、トンガ

女の子は、気候正義のために活動する女の子を支援するため、政府や国際社会がとるべき様々な行動を挙げた。「啓発グループへの支援」・「コミュニティ清掃等の集団活動の運営」・「清掃やマングローブ植林等のボランティア活動を行う女の子のクラブ/団体への支援」等を通じ、政府が女の子主導の集団行動を強化できると考える女の子もいた。また、女の子は、政府が女の子同士が気候変動について学び合うことを支援できるとも指摘した。

気候変動プロジェクトや対策活動への支援等、女の子が集団行動を起こすのを世界各国が支援することを望む女の子もいた。

「私たち女の子の気候変動と戦うという意思を支持し、寄付を続けてくれるよう、私たちは彼らに支援を求めます」

先住民の女の子、14歳、地方、キリバス

彼女たちは、太平洋地域の女の子の声を聞くことも世界各国に求めており、太平洋内外での機会を世界各国に求める女の子もいた。

「太平洋地域の女の子が参加できる気候変動に関するプロジェクトをもっと提供すること」

宗教的マイノリティの女の子、14歳、地方、FSM

また、気候正義の活動を展開する女の子を支援するには、財政的・物質的支援も必要である。

「これらの活動の運営・継続のための資金を確保すること」

民族的マイノリティの先住民の女の子、18歳、都市部、ツバル

活動への対価を得る重要性を強調した女の子もいた。

「気候変動対策活動に参加/協力し、報酬が支払われる場合があること」

宗教的マイノリティの女の子、18歳、地方、トンガ

### 個人の動機づけ

個人の動機づけが、気候正義の活動への参加を後押しする、と考えた女の子もいた。

「皆と友達になるんです。長老抜きで、私たちのために気候正義の活動をして、自分の国を愛するのです」

宗教的マイノリティの女の子、15歳、離島、ツバル

「気候変動の深刻な影響を受ける人びとを助けて」

女の子、17歳、都市部、ツバル

また、気候正義の活動に参加できる状態に自らを置き、準備を整えることで、活動参加への意欲が高まるという意見もあれば、学び・心構え・支援をしたいという意見も挙がった。

「気候変動に対する彼らの活動を知ってもらい、理解してもらいたいです」

女の子、14歳、地方、キリバス

ユース女性として気候正義の活動を行う機会が欠如していると訴える太平洋地域の女の子もいた。

「私たち女の子向けの活動は全くないです。環境週間のときだけ、参加できそうな活動があるくらいです」

民族的・宗教的マイノリティの先住民の女の子、16歳、都市部、ツバル

## 6.4 太平洋地域の女の子が気候正義の活動に参加する上での障壁

本調査では、女の子が気候正義の活動に参加が難しい理由を把握するため、自由回答形式の質問を投げた。回答では、知識や機会の不足・太平洋で女の子であること・支援やリソースの不足が挙げられた。

### 知識や機会の不足

14%の女の子が、「気候変動を理解していない」、または「その情報を得ていない」と答え、10%の女の子が、「災害時に女の子に対し下される決定に参加していない」と答えた。分析ワークショップの共同調査員は、「女の子が気候変動に関する意思決定への関与を許されていない」と説明した。71人の女の子は、「気候正義活動に関する知識が欠けている」と答え、その大部分は気候正義について知らず、気候変動についても認識していないと答えた。

「気候正義の活動に関する知識がないので、気候正義の活動に参加できません」

先住民の女の子、12歳、地方、キリバス

「そういう活動団体に参加するには、誰をフォローすべきかわかりません」

民族的マイノリティの女の子、15歳、都市部、ソロモン諸島

女の子は、気候正義の活動での能力・知識・スキルの向上のために、機会・教育・研修・リソースの増大を求めている。

プロジェクトパートナーは、「太平洋地域では気候変動に関する情報や教育の普及が大きな課題である」と話した。気候変動に関する情報は主に指導者や政府機関が握り、草の根コミュニティでは簡潔で事実に基づいた気候変動情報への入手が限られていた。彼らは、地方や遠隔地の政府機関では情報が十分に共有されていないと説明した。更に、大半の情報は気象パターンの変化に焦点を当てており、化石燃料産業の責任・資本主義・気候の不平等等の構造的な問題には触れていない。

### 太平洋地域で女の子であること

多くの女の子が、年齢・ジェンダー・文化（太平洋で女の子であること）が、気候正義の活動に参加する上での主な障壁となり、その多くは、気候正義の活動への参加には若すぎ、不可能だと述べた。また、文化的規範が女の子の参加を制限しているとも話した。ユースであるため、長老との対話が認められないという女の子もいた。

「私は幼く、気候変動に関する団体の会議で長老に意見を言う勇気がありませんでした」

先住民の女の子、16歳、地方、キリバス

自身のジェンダーが活動の機会を制限していると考える女の子もおり、彼女たちは気候正義活動について声を上げることを恐れている。

「私たちは女の子で、女の子に禁じられていることはできないし、男の子だけが拾ったり持ち上げたりできるような重いものも、全てダメなのです」

先住民の女の子、13歳、都市部、フィジー

気候正義の活動への参加に不安・恐怖・恥ずかしさを抱く女の子もいた。活動への参加・関与に恐怖を感じ、また、大勢の人や長老の前で発言することに恥ずかしさを感じるという。年齢やジェンダーを理由に、女の子の気候変動活動に対するコミュニティからの支援や信頼が欠如している可能性があり、一方、女の子が自身の問題を表明することには文化的な制約がある、と話す女の子もいた。プロジェクトパートナーは、家父長制が女の子と女性の意見を発する能力を制限しており、これは暴力や人権侵害に関して彼女たちが沈黙していることにも現れていると指摘している。

本調査では、「学業が大変で気候変動活動に参加できない」と答えた女の子もいた。彼女たちが気候正義活動に積極的に参加するには、コミュニティや家族からの支援が肝要である。

#### 支援やリソースの不足

「支援やリソースの不足により、気候正義の活動が困難である」と話す女の子もいた。彼女たちは、女の子に対する支援・協力・気候変動対策活動団体への参加の機会が限られていると訴えた。また、長老・保護者・コミュニティ住民の中には、気候変動対策を支持しない人もいるという指摘もあった。

「地元の人が自身の生活の重要性をあまり気にしなければ、彼らは大抵、伐採やゴミの焼却を行い、健康維持に貢献することはありません」

先住民の女の子、18歳、地方、トンガ

財政的支援・交通手段・個人や家族へのリソースの不足を、気候正義の活動に参加する上での主な障壁として挙げた女の子もいた。

#### Bulouの語り

Bulouはフィジーの地方に住む10歳の先住民の女の子である。

私にとって、気候正義の活動への参加に対する最も厚い障壁は、地方コミュニティでの認識の欠如と、学ぶための通信ネットワークの脆弱性です。

「お金がありません。誰も私を支援してくれません」

先住民の女の子、18歳、地方、FSM

「交通手段がありません」

先住民の女の子、18歳、地方、FSM

家庭内の役割、特に家事のために、気候正義の活動への参加が困難な女の子もいた。

「家事に追われて忙しいです」

先住民の女の子、12歳、都市部、ソロモン諸島

「私は家にいて、お母さんを手伝っています」

宗教的マイノリティの女の子、14歳、地方、FSM

保護者が厳しく、気候正義の活動への関与を許さないという女の子もいた。

「両親は私が放課後にどこへ行くのも許しません」

女の子、12歳、地方、ソロモン諸島

身体障害を持つ女の子は、気候正義の活動への参加を否定されていると説明した。

## Filoの語り

Filoはフィジーの地方に住む14歳の障害を持つ女の子である。

私は都市部から150km以上離れた地方にいます。気候正義の活動への参加に地理的な障壁があります。ネットワーク環境も問題です。私のコミュニティは非常に保守的で、障害を持つユースである私の声は求められず、尊重もされません。

私の学校とコミュニティについて描いたものです。これは、私を重度の視覚障害を持つ健常者ではない人間として、人びとがどう扱うかを示しています。学校の生徒の大半は、私が障害者であることだから、コミュニティの人は、私を問題児扱います。ありのままの私を家族は全面的に支えてくれます。コミュニティの人や学校の生徒が、私の最も大きな問題なのです。

政府・NGO・CSO・その他の利害関係者に対し、ジェンダー・ジェンダーの役割・多様性の包摂・人権などに関する啓発を実施し、これを私のコミュニティに浸透させるよう求めます。また、これらの内容を教育省が導入する学校の指導要領に盛り込むことも求めます。

不平等な扱い(差別、スティグマ)のないコミュニティが実現できれば、私の健康や環境に悪影響が及ぶことはないでしょう。

気候正義の活動への参加に対する障壁は、認識の欠如です。それは、私たちが大抵地方におり、取り残されてしまうからかもしれません。そして重要なのは、私たちがあらゆるものにアクセスさせてくれる、ネットワークの普及です。



「誰も私の言うことを聞いてくれないし、私は聴覚障害者です」

宗教的マイノリティの障害を持つ女の子、14歳、地方、FSM

同様に、体調不良や異常気象等の健康問題で、気候正義の活動への参加が困難であると答えた女の子もいた。

「私は女性で、生理のときに腰やお腹が痛くなってしまいうからです」

民族的マイノリティの女の子、18歳、地方、キリバス

だが、太平洋の多くの女の子が、支援が限られていても気候正義の活動に参加していることが結果から判明した。

## 7. 気候変動下を生きる太平洋地域の女の子による提言

本セクションでは、調査結果を基に、気候変動下を生きる太平洋地域の女の子の人権と積極的な参加を擁護するための戦略を提案する。これら戦略は、太平洋諸国および国際社会の政府と産業界、そして太平洋地域で気候正義のプログラムと提唱活動に従事するCSOに向けたものである。

これらの戦略の重点は、気候正義の意思決定に女の子を参加させ、気候正義のアドボケイトとしての彼女たちの主体性と力を支援することだ。しかし、私たちは、女の子には遊び・学び・休む権利があることを強調する。各国政府・CSO・コミュニティは、気候変動下の女の子の人権の達成責任を、彼女たち自身に転嫁してはならない。



### 戦略1:

太平洋地域の女の子が気候正義の実現に向けた女の子主導のフェミニスト運動を推進できるよう、支援とリソースが提供されること。これには、女の子にいかなる状況下でも研修・指導・資金が適正に提供され、太平洋地域内外で女の子主導の運動とより広範なフェミニスト運動との強固な関係が支援されることが含まれる。

太平洋地域には、誇り高く、多様で、相互に結びついたフェミニストの気候正義運動が存在する。同地域には、気候正義の強力な主導者でありアドボケイトである多くのユース女性がいる。本戦略は、太平洋地域の女の子とユース女性が気候正義のアドボケイトとしてリーダーシップの強化と、今と未来の気候正義のための女の子主導のフェミニスト運動への支援・リソースの提供により、世代間の公平性を追求するものである。

ソロモン諸島  
写真: Robert McKechnie



これは、気候正義のアドボケイトとして、様々な実体験を持つ女の子、特に性の多様性を自認する子どもや、地理的場所・収入・教育機会等の構造的な障壁により関りや参加の機会が乏しい女の子を対象とした、研修・指導・資金援助の実施を伴う。

本戦略では、特に指導を通じた、太平洋地域内外の女の子主導の運動とより広範なフェミニスト運動とのつながりと連帯の強化も含まれる。私たちは、同地域で次世代のフェミニストリーダーシップを育むために、支え合うコミュニティを基盤とした持続可能なフェミニストリーダーシップを提唱する。これは、コミュニティレベルから主要な国際プラットフォームに至るまで、女の子が気候正義の提唱活動に参加・つながれるようなリーダーシップの道筋を明示し、リソースを確保する必要があると考えられる。また、女の子が提唱と連帯への道筋を切り開くために、彼女たち自身が共同設計・共同主導するフェミニストの集いの場を設けることを奨励する。そして、既に女の子が互いに指導し合い、リーダーシップを発揮するのを促進する、安全で包摂的な場を創出する草の根の多様な組織（LGBTQIA+・障害者・セックスワーカーの組織等）へのリソース提供を推進する。



## 戦略2:

**太平洋地域のNGO・政府・フェミニスト・CSOが、女の子が集団で気候正義の共同学習や提唱活動に参加し、コミュニティの声を代弁する包摂的な場を設けること。**

太平洋地域の女の子が気候不正義を直に経験していることが結果から明らかになったが、彼女たちの活動に役立てるには、気候変動の構造的不正義に関する情報等、詳細な情報が必要である。女の子は、気候変動と人権に関する一層の知識・研修・能力開発を求め、気候正義のために行動を起こすよう政府や産業界に集団でキャンペーンを展開し、訴えることに自信を付けたいと考えている。これは、家族・コミュニティ・教会・学校・政府レベルで取り組み、女の子の多様なニーズや参加への障壁を理解・対応するアクティビストへの教育を必要とする。また、女の子に、政府や企業に気候変動問題を真剣に考えるよう働きかけるため、気候変動やその生活への影響に関する実体験をどう生かすかを教えることも含まれる。

障害を持つ女の子、LGBTQIA+の女の子、遠隔地に住む女の子など、あらゆる女の子が包摂されること。

女の子はコミュニティベースの組織・NGO・政府が協力し、気候変動について女の子に教育を施し、気候正義のためのコミュニティ主導の集団行動に女の子が参加できる安全な空間を創出すべきだと提案した。これには、樹木・マングローブ・サンゴの定植、清掃等のコミュニティ活動への参加の支援や、気候正義のためのキャンペーンや提唱活動を女の子が主導するのを支援することが含まれる。これらの活動に常に資金が要るわけではなく、既存の地元のリソースを活かすことも可能である。共同調査員も「女の子は沈黙すべきではないが、彼女たちは自身の声を聞いてもらうのに苦労している」と述べた。

太平洋諸国のNGO・政府・フェミニスト・CSO・提唱団体は、全ての気候変動と持続可能な開発関連のプログラムに女の子を参加されることを女の子は提言した。要となる取り組みのプロセスは、有償ボランティアと指導者制度およびその枠組みである。また、既存のグループやプログラムに、全ての気候変動関連のプログラムに多様な女の子の参加を保証するための特別措置を盛り込むことも提言された。



### 戦略3:

太平洋地域の女の子が、気候変動の実体験を記録し、女の子の権利が保障される効果的な災害リスク軽減策を推進し、気候正義の活動への女の子の参加に関する体験を共有できるよう、支援・指導・リソースが提供されること。

太平洋地域の女の子は、自身の人生の専門家である。彼女たちの気候変動の実体験の記録・解釈を支援し、複数の交差する気候不正義や不平等を明らかにすることは重要である。それらの記録には、家父長制・資本主義・植民地主義・文化的/宗教的保守主義・人種差別・軍事化・化石燃料の採掘主義等の気候不正義の構造的基盤を検証することが求められる。女の子が自身の経験を記録する際に、視覚的表現・歌・ダンス・詩・口承・絵画・演劇等の様々な表現形式を通じて、創造的な芸術や先住民の言語が統合されることが重要だ。

更に、太平洋地域の女の子は、気候変動の軽減・適応・損失と損害に関する好事例・解決策・成功例を、彼女たちを包摂し、彼女たちの権利を擁護する正当な方法で文書化・共有できるよう支援されること。これには、女の子も参加する意思決定の場・女の子のニーズを中心とする革新的な災害リスク軽減の実践・女の子が利用できる気候変動に関する情報伝達のアプローチ等、権利に基づくプロセスの文書化が含まれ得る。また、彼女たちの自身の体験談・戦略・学び・気候正義の活動の影響の文書化への支援も不可欠である。



### 戦略4:

太平洋諸国政府は、女の子の、森林・海洋・河川・真水資源・大気・土地を保護するための法律を見直し・強化・施行するよう求める声を真摯に受け止めること。これには、食料や生計の主要源としての海洋生物や生物多様性を認識・保護することが含まれ、健全な環境を享受する権利は自然環境の持続可能性に依存していることを認識すること。

調査全体を通し、女の子は、太平洋地域の人びとにとって環境が文化・経済・社会的に極めて重要であることを常に強調した。環境は、食料・水・伝統的薬草等の人間が求めるものを供給し、多くの家族の生計の基盤とされている。太平洋地域は、この地域全体の精神・文化的アイデンティティの根源である。土地は精神・文化的な重大性を帯び、代々受け継がれてきた。ユース女性共同調査員は次のように述べた「土地を失えば移住しなければなりません」。

政府は、植物や動物の全ての生物種を含む環境を保護する責任がある。これは、森林伐採・乱獲・廃棄物の焼却や投棄・採掘等の採取作業・大気/土地/水質汚染等の有害な行為から環境を保護することを意味する。

女の子は、川や井戸等の真水の水源の汚染を懸念している。これは、賄賂や汚職・強力な独立機関の欠如、開発の社会的影響に関するコミュニティの認識の低さなどが加わって悪化している。従って、現行の環境法や脆弱な保護・保全措置では、説明責任が果たされず、現地での監督も不十分である。

太平洋諸国政府は、国内外の汚染産業を規制する責任がある。漁業・林業・鉱業(陸上と海上)や、天然資源や鉱物資源を採取して利益を得る製造業に対して、一層強力な法規制と透明性の高い施行が求められる。海洋当局も、環境や気候変動に関する違反行為を網羅する、更に強力な政策を求めている。

司法・環境裁判所・人権委員会・オンブズマン事務所等の独立機関は、法律や政策を適用し、気候変動や環境破壊による被害に対する回復策や救済策を提供すること。女の子は、自身のコミュニティ・生計・全生物種の未来・人類の生存を確保するために、廃棄物管理を含む強力な環境保護を訴えている。彼女たちは、行動を起こすのは今だと主張しており、政府は「環境破壊を阻止」しなければならないと訴えた。また、政府は、包摂的で、皆に公平な経済的安全とウェルビーイングを保証する持続可能な開発を支援すべきである。



## 戦略 5:

**政策立案者は、気候変動下を生きる太平洋地域の女の子の権利を守るために、省庁を越えて協力すること。**

太平洋地域の女の子は、気候変動が環境・健康/ウェルビーイング・教育・生計・文化・コミュニティ等、生活のあらゆる側面と交差していることを理解し、経験している。それ故、太平洋地域および国際社会の政策の全領域に気候正義を組み込む必要がある。

政府の省庁は、女の子の権利を保障するために協力し、世界人権宣言・子どもの権利条約・女性の権利/人権/国際法に関するその他の国際文書に則った対応をすること。これには、女性省、教育省、厚生労働省、気候変動・環境省が含まれるが、これらに限定されない。全ての政策は、気候変動下の女の子の成長する権利や適正な生活水準を享受する権利(食料を得る権利・安全で清潔な水を得る権利・教育/安全と安心/健康的な環境/家族/余暇/健康/文化/住居を享受する権利を含む)を保障すること。

政策はまた、公正で民主的な社会への約束のもと、女の子の有意義な包摂、参加とリーダーシップを実現させ、気候変動下でのジェンダー平等を促進すること。気候変動下の、障害を持つ女の子・性の多様性を持つユース・地方や遠隔地、都市部の貧困地域に住む女の子・その他マイノリティ集団を含む、女の子全員の権利は、公共・民間部門の全ての政策とプログラムで保障され、組み込まれなければならない。



## 戦略 6:

**政策立案者は、気候変動に関する意思決定に反映させるため、女の子と積極的に交流すること。**

太平洋地域では、ジェンダーに基づく暴力(GBV)やその他女性と女の子に対する人権侵害が非常に多く認められる。これは、議会への女性やユースの参加度の低さや、女の子が政府に助言や指針を示す正式な仕組みがほぼ皆無であることを説明しているのだろう。気候正義は世代間の公平性を追求する。これは、子どもや女の子が今、彼らに影響を及ぼす政策に関与し、将来の指導者として政策を策定できるようにして、それにより未来の世代の権利を守ることから始まるのだ。

女性は災害や人道的危機の発生時に、最初に反応し、最も信頼されたコミュニティの対応主体であるが、共同調査員によると、文化的背景から、女性と女の子はリーダーシップや意思決定への参加が許されていないという。多くの太平洋諸島コミュニティでは、男性のみが村やコミュニティの会議への参加が許され、女性と女の子は料理やお茶の準備、子どもや高齢者の世話を期待されている。

共同調査員は、政府がNGOを招聘し、特に女性・ユース省を通じて、女の子の意思決定の場で発言を可能にさせることを提案した。フェミニスト運動とその支援者、特に家父長制や保守主義に挑戦する草の根コミュニティで活動する進歩的な教会は、女の子への働きかけを拡大するために資金提供を受け、規模を拡大しなければならない。これにより、女の子のリーダーシップと声を強化する安全なコミュニティが実現できるのだ。政策立案者は、ジェンダーの役割に関する家父長的な考え方を変えるために、気候正義のための行動における女の子のリーダーシップを支援すべきである。

更に、コミュニティが、地元や地区レベルの意思決定を通じて女の子の声を伝えるための場やプラットフォームを創出し、それを国政に反映させることも可能だ。共同調査員は、女の子の参加・包摂・リーダーシップを制限する障壁を打破するには、政府と市民社会の協力が不可欠だと主張する。その鍵となるのは、政府が教会や伝統的指導者といった影響力のある機関と強固な関係を築き、気候変動下の女の子の声を増幅し、彼女たちのニーズに応える安全な空間を確立することである。



## 戦略 7:

**太平洋地域の女の子全員が、良質な水・食料・住居・エネルギー・インターネット・コミュニティ施設へのアクセス権という人権を享受できるよう、適切に管理され、安全で気候変動に強い基本インフラへの利用を確保できること。**

気候正義は、様々な実体験を経験した女の子を含む全ての人々が、良質な水・食料・住居・エネルギー・インターネット・コミュニティ施設等へのアクセス権という人権の保障に不可欠な気候変動に強いインフラを安全に利用できることを条件とする。これには、安全で利用しやすく、持続可能なコミュニティ所有のインフラを開発するための地域に合わせた建設プロジェクトへの投資が必要である。障害を持つ女の子や地方・遠隔地に住む女の子のインフラへのニーズを満たすことが優先事項である。

女の子全員が、年間を通じて、家庭で清潔な水を享受できるようにすることは、特に月経時、重要な優先事項である。それには、コミュニティが所有・管理し、現地の環境リスクや文化的配慮に即した水の公正性のための解決策が求められる。共同調査員は、地元・国・地域レベルで、女の子主導の水の公正性キャンペーンにリソースと支援を投入することが急務であると指摘した。

低炭素で環境的に持続可能な経済・社会への公正かつ公平な移行という世界的な目標に準拠し、太平洋地域での化石燃料使用の全面的廃止は喫緊の要件となっている。再生可能で安全かつ安価なエネルギーが実現すれば、女性と女の子は身の危険を伴う、直火による調理から脱却でき、持続可能なエネルギーへの移行は、多くの太平洋地域の女の子に良質で安定した照明の利用を可能にし、学校の課題や家事の遂行を容易にする。街灯の改善は、女の子に安全性と安心感を約束するだろう。また、照明や調理用の灯油やガソリンの購入に伴う家計の負担も軽減されるはずだ。

COVID-19パンデミックは、デジタルとテクノロジーへのアクセスが人権であることを知らしめた。だが、地方や遠隔地のコミュニティでは、多くの女の子がインターネットや通信接続を利用できていない。急速な技術開発とソーシャルメディアの影響により、女の子のデジタルスキル習得への投資が求められている。政府と開発機関は、太平洋地域の女の子にデジタル研修を提供すべきである。この研修には、女の子が生活環境の変化や気候変動による実体験の記録・データ収集・生産物の販売・気象警報や情報の共有・仮想プラットフォームへのアクセス・あらゆる形態の暴力や人権侵害の報告を行うための研修が含まれる。

更に、政府と開発機関は、特に地方や遠隔地でのインターネット接続性を高める通信インフラへの投資を通じて、情報格差の解消に尽力する必要がある。これにより、多くの女の子が自宅やコミュニティの安全な場所からオンライン教材にアクセスしたり、オンライン授業/研修/ワークショップに参加可能になる。女の子が情報を入力・情報に基づく適切な判断の実行・社会経済的地位の向上を実現するには、携帯電話・ノートパソコン・タブレット端末への平等なアクセス権が要求される。



## 戦略 8:

太平洋地域の女の子全員が、自然災害時・災害後も含め、良質な教育を享受でき、気候変動に強い生計を追求し、気候正義の活動に携われるようにすること。これには、初等・中等・中等後教育の教科課程にフェミニスト気候正義が組み込まれるようにすることも含む。

太平洋地域の女の子が良質な教育を享受することは極めて重要である。これは、正規教育と情報を得る機会・生活技能訓練・デジタル/テクノロジーの利用・インターネット接続・生計の機会を含む。気象事象の発生中・発生後も、女の子の教育機会は維持されること。これには、政府と開発機関が、道路閉鎖や学校の損壊による教育機会と交通の問題に対処し、利用可能な道路・橋・埠頭等の公共インフラを整備・維持することが必須である。そして何よりも、テント等の仮設学校の設置に際し、女の子の安全とウェルビーイングが保証されること。太平洋の障害を持つ女の子や、地方・遠隔地・都市部の貧困地域に住む女の子が取り残されてはならない。また、気候変動による財政的影響が、女の子の教育参加の妨げになってはならない。

早くに中途退学した女の子は、正規の教育制度への再登録や職業訓練/生活技能訓練校への入学等、教育機会を再び享受できるよう支援され、リソースが提供されなければならない。また、太平洋地域の女の子とユース女性が、国外で仕事に就くことを唯一の機会と考えることなく、コミュニティや国で安定した生計を獲得・維持できるよう支援することも不可欠だ。これには、太平洋のアイデンティティを称える文化的/先住民の慣習やコミュニティの生計手段の復活・回復も含まれる。

女の子は、学校やコミュニティグループに対して、気候変動・人権・気候正義の提唱活動における女の子の知識・スキル・参加を育成することも求めている。これには、初等・中等・中等後教育の課程全体を通じて、気候正義・気候適応・災害へのレジリエンスを教育課程に組み込むことを含む。女の子は、気候変動の構造的根源に関する理解の深化等、気候変動に関する理解を一層深め、自然・天然資源・コミュニティの生計・ジェンダー平等・地球と共存する全生物の保護とのつながりに関する知識を深化させるだろう。

また、女の子の先住民/伝統の技術や文化の学びを支援し、彼女たちの参加のための安全な文化的空間を保証することも含む。先住民の科学・慣習・知識を、IPCCは気候変動への適応と解決に不可欠なものとして認めている。女の子は、水や食料の保存・海洋生物の保護・種子(遺伝子組み換えでないもの)の保存・有機農業・気候変動に強い作物の栽培等の、持続可能な実践を習得しなければならない。

太平洋の学校は、災害によるトラウマを経験した女の子や、自身の将来・家族やコミュニティの生計に対するエコ不安に苛まれる女の子に対し、ケアや相談の場を適切に提供すること。教育指導要領は、気候変動下の精神的健康とウェルビーイングを考慮し、女の子のウェルビーイングを支えるツールや健全な対処スキルを提供すること。



## 戦略 9:

太平洋地域の女の子が災害時・災害後に健康と安全を享受する権利が守られること。

気候変動は、太平洋地域で既に脆弱な医療制度を更に弱体化させている。女の子は、女の子全員が公平に医療を享受できるよう要求する。女の子のSRHRの保証が特に重要である。これには、生殖に関する健康・女性の健康・性感染症の検査/治療・HIV予防/検査/相談/治療へのリソースの提供が含まれる。同地域では、女の子のSRHRはタブー視されており、コミュニティでは、この話題は恥ずかしい、または気分を害するとして、一般的に避けられてきた。共同調査員は、政府関係者に、宗教系団体と協力し、女の子の生殖に関する健康について保護者と取り組むよう強く求めた。

ユースが自身の身体を理解し、利用できるサービスの利用・望まない妊娠の回避を安全に行えるよう、生殖に関する健康に関する迷信や誤解を解くことは極めて重要である。妊婦の問題を扱う保健機関が思春期の妊婦に、必要かつ時宜にかなった、権利に基づく情報や、出産前後ケアを提供できなければならない。また、女の子は、女の子とユース全員に、良質で持続可能かつ入手しやすい月経用品が無料提供されるのを望んでいる。

太平洋地域の女の子は、気象災害中・災害後様々な特有の健康上のニーズを抱えており、衛生管理の面では安全で清潔な水の入手が不可欠であり、特に月経時はそうである。彼女たちは、災害時に月経管理に必要な清潔な水・衛生用品・尊厳ケアパックを女の子全員に供給するよう政府に要求した。女の子が緊急のニーズを安心して伝えられるよう、災害・人道支援コミュニティの支援チームに女性と女の子を含めることは必須である。

更に、多くの女の子が、男の子より「上手に泳ぐ方法を知らない」と回答した。これは、特に洪水時に彼女たちを危険にさらすことになる。彼女たちは、政府に対し、女の子向けの水泳教室や、災害時に女の子が利用できる施設や安全装備(子ども用ライフジャケット等)の支給を求めた。

本調査プロジェクトの調査結果は、太平洋地域での気候変動の文脈における女の子に対する暴力の深刻さを過小評価している可能性が高い。災害時・災害後を含め(に限らず)、GBVを経験した女の子に、政府やCSOは十分な支援と保護を提供しなければならない。避難所は、障害のある女の子・LGBTQIA+の女の子・その他マイノリティ集団に属する女の子を含め、女の子全員にとって安全でなければならない。これは、女の子・性の多様性を持つユース・障害を持つ人のための、独立した保護スペースの設置を検討することを含む。

また、村長やコミュニティ看護師等のコミュニティの指導者が、権利に基づくアプローチでGBVに対処するための研修を修了することも必須である。これには、GBVと多様な障害の交差の理解も求められる。そして、女の子とユース女性は、GBVに遭った際に助けを求め・報告できるよう、情報や手段を常に利用できなければならない。法執行機関は、支援と司法の利用に関する研修を受けた女性職員を配置すること。加えて、GBVを報告した女の子が再度標的とされたり、更なる恐怖を経験することがないように、広範な安全・支援制度も必要である。これは、GBVに関する刑法の強化・施行と、女の子に対する男性の暴力を防止するための啓発プログラムやキャンペーンの実施を伴う。

また、太平洋地域の女の子が、災害後も含め、トラウマ・うつ病・不安・その他精神的健康上の問題を解消するため、専門的で権利に基づく、文化的に安全な相談サービスの利用が保証されることも必須である。同地域では、精神的健康分野は深刻なリソース不足に陥っており、彼女たちは、女の子と女性がコミュニティ・連帯感・姉妹愛を通じて互いに支え合うピア・プログラムへの支援とリソース投入を求めた。

そして、太平洋での災害時における採取作業や採鉱の社会経済への長期的な影響を考慮すると、経済発展の機会への投資の決定に際しては、慎重を期することが極めて重要といえる。更に、女の子は、コミュニティ所有の農業や作物の多様化等、持続可能な開発の推進を訴えた。それらは、彼女たちの社会経済状況の改善を助け、同時に、気候変動による水や食料の不安問題にも対応し得るものだ。



## 戦略 10:

**太平洋地域の女の子は、気候変動への適応と災害へのレジリエンスにおいて、変化の担い手かつ初動対応者として支援・指導・リソースを付与されること。**

太平洋地域には、防災や災害対応に積極的に携わり、コミュニティの力学に精通した女性の多様な幅広いネットワークが存在する。災害計画に女の子を参加させ、指導を強化することで、それらのネットワークを強化できる可能性がある。女の子は、気候変動への適応や災害へのレジリエンスにおいて、変化の担い手かつ初動対応者という役割を担い、その役割を果たすため、支援・指導・リソースを付与されなければならない。



このことはまた、伝統的なジェンダーの役割を越え、STEAM・建設・その他男性優位の領域において、女の子に生計とリーダーシップの機会をもたらすだろう。

女の子は、地域に根ざしたコミュニティの災害対策グループを設置し、活動資金を投入することの重要性を認識している。それらのグループは、ジェンダーバランスと多様性を実現し、女の子の代表者を含めなければならない。また、伝統的指導者やコミュニティのリーダーと緊密な連携も可能である。グループのメンバーは、ジェンダーに配慮した対応や、疎外されたコミュニティの災害対策や活動への参加を働きかけ・促進するための研修や支援を受けられる。そこで重要なのは、災害時の対応においてコミュニティのリーダーと緊密に協力し、報告やデータ収集を遂行できるよう、地方の女性リーダーを対象に相談スキルやGBVの報告に関する研修を実施することだ。これは、国のジェンダー・人権・災害リスク管理制度にも有益である。

学校でのZanima、ソロモン諸島  
写真: PIA



## 8. 結論

本報告書では、太平洋地域の女の子の地域の気候変動の影響に対する意見や実体験・女の子の権利を守るための行動、彼女たちの気候正義の提唱活動への関与等を紹介した。FPARの原則と実践に影響を受け、本プロジェクトは太平洋地域の女の子との連携のもとで実施された。共同設計・データ収集・参加型分析・女の子主導の提唱活動という4つの反復サイクルを通じて、本プロジェクトは彼女たちが懸念を表明・解決策を提案・有意義な気候正義の活動への関与を達成するためのプラットフォームを提供した。

調査結果は、太平洋地域の女の子に対する気候変動の多面的な影響を明示した。これには、基本的な必需品の入手困難・健康上の問題・教育/遊び/生計の享受に対する障壁等が含まれる。結果は、これらの影響が互いに交差する性質を持つことを示しており、ジェンダー・年齢・居住地・社会経済的地位等の要因が、家父長制・植民地主義・資本主義・エイジズムの抑圧的な構造と交差して、脆弱性を悪化させる様子を明らかにしている。

本プロジェクト参加者の太平洋地域の女の子は、環境の持続可能性・社会正義・人権の相互関係の理解が見受けられる、気候正義のための実行可能な戦略を提案した。彼女たちは、政府・国際社会・CSOに対し、気候変動の軽減・適応・包摂的な災害対応において、公正で女の子中心の取り組みを保証するよう求めた。彼女たちは、女の子が気候政策の中心に据えられることを要求した。

調査結果は、太平洋地域の女の子が気候正義の活動に意欲的であることを示唆した。彼女たちは、フェミニスト運動・家族・コミュニティ・学校・政府の支援を受けながら、女の子主導の場で気候正義のための集団行動を起こすのを望んでいる。

本報告書で概説された10の戦略は、気候変動下を生きる太平洋地域の女の子の権利と行動力を保障するための指針を、コミュニティからCSO、政府に至るまで、様々なレベルの利害関係者に提供するものだ。これらの戦略は、女の子主導のフェミニスト運動の構築・女の子の参加のための包摂的な場の創出・太平洋地域の女の子全員の基本的なサービスや教育の享受の保証の重要性を強調する一方、政府や産業界に対し、排出削減やコミュニティや環境の保護に対する責任の履行を求めている。これらの戦略は、気候変動が女の子の人権に及ぼす影響に対する包括的なアプローチを推進するものである。

これらの戦略を具体的な行動に移すことが絶対不可欠である。それには、政治的な意志と財政投資に加え、太平洋地域の女の子の意見や経験を気候変動に関する議論や意思決定プロセスで反映し、中心に据えるための意識と制度の抜本的な転換が必要である。

太平洋地域の女の子が声をあげている。

「黙ってはいけません。この気候変動を生き延びる術を見つけなければならないのです」

女の子、16歳、都市部、ソロモン諸島

「立ち上がり、導こう。声を上げよう」

宗教的マイノリティの障害を持つ  
女の子、17歳、地方、FSM

「地元や世界のリーダーと話し合い、行動を起こそう。誰も一人ではできません。私たちは協力し合います」

人種的・宗教的マイノリティの女の子、  
18歳、地方、トンガ

「私たちの声を聞いてください」

先住民の女の子、13歳、地方、ツバル

# 脚注

- 1 これは彼女の真名ではない
- 2 Intergovernmental Panel on Climate Change. (2023). *AR6 Synthesis Report: Climate Change 2023*. <https://www.ipcc.ch/report/ar6/syr/>
- 3 Office of the United Nations High Commissioner for Human Rights. (2019). *Office of the United Nations High Commissioner for Human Rights (OHCHR) submission to the UNFCCC on Gender and Climate Change*. <https://www4.unfccc.int/sites/SubmissionsStaging/Documents/201905102051---OHCHR%20Submission%20to%20the%20UNFCCC%20on%20the%20Gender%20Action%20Plan.pdf>
- 4 United Nations Committee on the Rights of the Child. (2023). *CRC/C/GC/26: General comment No. 26 (2023) on children's rights and the environment with a special focus on climate change*. <https://www.ohchr.org/en/documents/general-comments-and-recommendations/crcgc26-general-comment-no-26-2023-childrens-rights>
- 5 Save the Children, et al. (2019). *Unseen, unsafe: The underinvestment in ending violence against children in the Pacific and Timor Leste, p.4*. <https://www.plan.org.au/publications/unseen-unsafe/>
- 6 UN Women (2014). *Climate change, disasters and gender-based violence in the Pacific*. <https://www.uncclearn.org/wp-content/uploads/library/unwomen701.pdf>
- 7 United Nations Children's Fund. (2021). *Situation analysis of children in the Pacific Island Countries*. <https://www.unicef.org/pacificislands/media/3341/file/Situation%20Analysis%20of%20Children%202021.pdf>
- 8 Pacific Disability Forum. (2022). *Disability and climate change in the Pacific*. <https://pacificdisability.org/wp-content/uploads/2022/08/PDF-Final-Report-on-Climate-Change-and-Persons-with-Disabilities.pdf>
- 9 Plan International. (2019). *Our education, our future: Pacific girls leading change to create greater access to secondary education: Solomon Islands, p.8*. <https://www.plan.org.au/publications/our-education-our-future/>
- 10 Plan International Australia. (2023). *From crisis to classroom: Understanding the effects of climate change on girls' access to education*. <https://www.plan.org.au/publications/from-crisis-to-classroom/>
- 11 Intergovernmental Panel on Climate Change. (2023).
- 12 World Health Organisation. (2015). *Human health and climate change in Pacific island countries*. [https://iris.who.int/bitstream/handle/10665/208253/9789290617303\\_eng.pdf?sequence=1](https://iris.who.int/bitstream/handle/10665/208253/9789290617303_eng.pdf?sequence=1)
- 13 United Nations Children's Fund. (2021).
- 14 Ibid.
- 15 UN Women. (2014). *Climate change, gender and health in the Pacific*. <https://www.uncclearn.org/wp-content/uploads/library/unwomen702.pdf>
- 16 Togiba, L. & Doherty, B. (2021). Mining in the Pacific: A blessing and a curse. *The Guardian*. <https://www.theguardian.com/world/2021/jun/07/mining-in-the-pacific-a-blessing-and-a-curse>
- 17 Pacific Women. (2021). *Thematic brief: Leadership and decision making for women and girls in the Pacific*. [https://pacificdata.org/data/dataset/57ad476a-e430-41c9-8168-ced0f063f138/resource/f573a547-ced0-43b9-8187-f26ae4ede496/download/thematic\\_brief\\_pacific\\_women\\_leadership.pdf](https://pacificdata.org/data/dataset/57ad476a-e430-41c9-8168-ced0f063f138/resource/f573a547-ced0-43b9-8187-f26ae4ede496/download/thematic_brief_pacific_women_leadership.pdf)
- 18 United Nations Children's Fund. (2023). *Children displaced in a changing climate*. [https://www.unicef.org/media/145951/file/Climate%20displacement%20report%20\(English\).pdf](https://www.unicef.org/media/145951/file/Climate%20displacement%20report%20(English).pdf)
- 19 Le Masson, V. et al. (2020). *Adolescent girls in crisis: Sahel. Report for Plan International focusing on Burkina Faso and Mali*, Plan International.
- 20 Edith Cowan University Human Research Ethics Committee approval number 2020-02148-GODDEN.
- 21 Asia Pacific Forum on Women, Law and Development. (2020). *Feminist Participatory Action Research*. <https://apwld.org/feminist-participatory-action-research-fpar/>
- 22 離島からの参加は少数であったため、報告された影響の違いを解釈する際に留意すること



# 付録

The full survey is available to download at:  
<https://www.plan.org.au/publications>



**Until we are all equal**

**plan.org.au** **13 75 26**

Plan International Australia  
18/60 City Road, Southbank VIC 3006  
GPO Box 2818, Melbourne VIC 3001  
Tel: 13 75 26 Fax: +61 (3) 9670 1130  
Email: [info@plan.org.au](mailto:info@plan.org.au)

ABN 49 004 875 807

© Copyright Plan International Australia. PIA0269

 /planaustralia

 @PlanAustralia

 @plan\_australia